木質構造特記仕様書

1．共通事項

（1）適用範囲
本仕様書は構造用集成材を主要構造部に使用し、柱・梁をボルト類により半剛接合した木質ラーメン構造による建築物に適用する。

（2）設計図書
設計図書とは本仕様書、設計図、見積要領書（現場説明書及び質疑回答書を含む）をいう。

（3）準拠基準
建築基準法、同施行令、告示、それらに基づく技術的助言
2025年版 建築物の構造関係技術基準解説書
木質構造設計規準・同解説　　（日本建築学会　2006）

（4）特記事項の適用
特記事項は、■印を適用し同一項目に２つ以上ある場合は、共にこの工事に適用する。

（5）施工図の提出
工事に先立ち施工図を必要に応じて作成し、監督者の承認を受ける。

2．建築物の構造内容

（1）工事種別
■ 新築　□ 増築　□ 改築　□　□

（2）構造設計一級建築士の関与　□ 必要　■ 必要としない
□ 法第20条第二号（ □ ＲＣ造高さ 20 m超　□ Ｓ造 4 階建以上　□ 高さ 16 m 超　□ その他 ）
□

（3）階数
地上　1　階

（4）構造種別

構造種別	該当階等	架構特徴等
■ 鉄筋コンクリート造　(RC)	基礎	□ 免震建物
□ 鉄骨造　(S)	階～　階	□ 制震建物
■ 木造　(W)	1 階	□ 塔状建物
□ その他		□

（5）主要用途
■ 公衆浴場

（6）屋上付属物
□　□　□
□　□　□

（7）設計荷重
（a）主な積載荷重　(N/㎡)

室名	床用	架構用	地震用
構造計算書による			

（b）1次設計用地震力
Co ＝ 0.2　　Z ＝ 1.0　　Rt ＝ 1.0　　K（地下）＝ 0.1

（c）風荷重
地表面粗度区分：　Ⅲ　　基準風速　Vo ＝ 34　m/sec

（d）雪荷重
垂直積雪量　30　cm　　単位荷重　20　N/cm・㎡

（e）燃え代設計
□ なし　□ 35mm（45分準耐火）　□ 45mm（60分準耐火）
（燃え代指定部材は、図面による。）

（d）特殊の荷重及び仕上材
□　□　□
□　□　□

（8）構造計算ルート
ルート　一（ 1 ）

（9）一次設計時用層間変形角
1/ 200 rad

(10) 付帯工事
□　□　□　□　□

3．構造用集成材・構造用合板・接合金物の材料の品質・仕様

（1）構造用集成材
a. ＪＡＳ認定工場で製造されたＪＡＳ規格の構造用集成材とする。
b. 樹種及び強度等級

樹種	対称異等級構成集成材	同一等級構成集成材	使用環境
□ ベイマツ	□ Ｅ135-Ｆ375	□ Ｅ120-Ｆ375	□ 使用環境Ａ
■ ヒノキ	□ Ｅ120-Ｆ330	□ Ｅ105-Ｆ345	□ 使用環境Ｂ
■ オウシュウアカマツ	■ Ｅ105-Ｆ300	■ Ｅ 95-Ｆ315	■ 使用環境Ｃ
□ カラマツ	□ Ｅ 95-Ｆ270	□ Ｅ 85-Ｆ300	
□ スプルース	□		

（2）構造用合板
a. 構造用合板はＪＡＳ規格とし、その厚さは次の通り。

水平構面用	鉛直構面用
□ 12mm　2級　Ｆ☆☆☆☆	■ 構造用パーティクルボード　9mm　Ｆ☆☆☆☆
□ 15mm　2級　Ｆ☆☆☆☆	□ 9mm　1級　Ｆ☆☆☆☆
□ 24mm　2級　Ｆ☆☆☆☆	□ 9mm　2級　Ｆ☆☆☆☆
■ 28mm　2級　Ｆ☆☆☆☆	□ 12mm　2級　Ｆ☆☆☆☆

（3）接合金物
a. 接合金物はＪＩＳ　Ｇ３１０１（一般構造用圧延鋼材）とし、材質はＳＳ４００とする。
b. 接合金物の仕様はＳＥ金物同等以上とする。
c. 接合金物の防錆仕様はＪＩＳ　ＨＯ４００　カチオン電着塗装同等品以上とする。
※金物形状は、金物詳細図による。

（4）ファスナー（ボルト・ナット・座金・ドリフトピン・Ｓボルト・アンカーボルト等）
a. 製品の規格は次の通り

名称	規格		備考	
■ ボルト	JIS B 1180	六角ボルト		
■ ナット	JIS B 1181	ナット		
■ 座金	Ｚマーク同等			
■ Ｓボルト	JIS G 3138	SNR490B		
■ ドリフトピン	SS400相当			
■ ハンガーボルト	JIS G 3507			
■ ビス	JIS G 3507	SWCH18A		
□ ブレース	JIS A 5540			
■ 釘	JIS A 5508	ＣＮ釘・Ｎ釘		
■ 釘	JIS G 3505 相当	ＴＮ釘		
■ 柱脚用アンカーボルト	JIS G 3138			
■ 土台用アンカーボルト	Ｚマーク同等			
□				

b. 座金

	ボルト径	厚さ	直径
■	16mm	4.5mm	47mm
□	20mm	4.5mm	58mm

（5）特別製作接合金物
a. 特別製作接合金物の表記方法は次による。

表記記号	ＢＰ	ベースプレート	ＭＢＰ	中間ベースプレート
	ＳＰ	スプリットプレート	ＧＰＬ	ガセットプレート
	Ｒ	リングジベル		

（6）二次部材の接合金物
a. 二次部材にはＺマーク金物・Ｃマーク金物等を用いる。

4．木材加工

（1）木材加工は、本仕様書に基づく木材加工の管理ができる工場とする。
a. 施工図
施工図は設計図書に基づき、納まりや詳細について十分検討した上で作成し監理者の承認を受ける。
尚、CAD/CAM連動システムによるCAD伏図は施工図の代用とみなす。
b. 部材寸法の品質

部材巾（短辺）		-0.5mm～+1.5mm
部材成（長辺）	300mm以下	-0.5mm～+1.5mm
	300mm超える	±0.5%（ただし-3.0mm、+5.0mmを超えないこと）
部材長		±5.0mm以内

検査方法　■ 指定工場での工場検査
□ 工事現場での受け取り検査
□ 立合目視検査

c. ボルト・ドリフトピン・スリットの加工品質

接合名称		木材加工
センタースリット巾	鋼鈑6mm	7.5～8.0mm
ドリフトピン接合	DPφ16mm	16mm
	DPφ20mm	20mm
ボルト接合	M16mm	17.5～18.0mm
Ｓボルト接合	外径21.2mm	17.5～18.0mm
ハンガーボルト接合	外径12.5mm	9.0mm

検査方法　■ 指定工場での工場検査
□ 工事現場での受け取り検査
□ 立合目視検査

d. ボルト・加工位置の品質
ＣＡＤ連動のＣＡＭ化された加工システムによるものとする。
e. 柱梁の標準接合部は次の通り。

5．耐久性（防腐・防蟻）

（1）木材の防腐・防蟻処理
a. 現場処理：塗布、吹付
※主要構造部の木材（集成材）には地面から1m以内の部分に有効な防腐・防蟻処理を行うこと。
※外部に使用する主要構造部の木材（集成材）には有効な防腐・防蟻処理を行うこと。
※主要構造部の木材（集成材）の養生塗装は施してありません。
（注：接合部、亀裂部、コンクリートなどに接する部分は、特に入念な処理を行う。
給排水用塩化ビニル管に接する部分は、薬剤による損傷を防ぐため管を保護する。
処理方法は、日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。）

6．接合金物の品質

（1）接合金物は、本仕様書に基づく接合金物の管理ができる工場とする。
検査方法　■ 指定工場での工場検査
□ 工事現場での受け取り検査
□ 立合目視検査

7．建築設備

建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

■ 建築設備（昇降機を除く）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。
□ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの（以下「屋上水槽等」という。）は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
□ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は、鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
□ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
■ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備（給湯設備※を除く）は、
■ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
■ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
■ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
■ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の振動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
□ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあっては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。
■ 給湯設備※は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15Kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。
※「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号
一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

木質構造特記仕様書	製図
（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト	検図
群馬県　邑楽郡明和町	承認
	日付　2026.09.02
	縮尺
株式会社レーモンド設計事務所	設計番号　25-2782
東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111	
一級建築士事務所登録　第８６８号	図面番号　0DU504
一級建築士登録　第178316号　関谷源次	Ｓ－０１

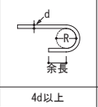
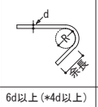
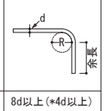
壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
（２）記号
d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値　　D…部材の成　　R…直径
@…間隔　　r…半径　　℄…中心線　　ℓ₀…部分間の内法距離　　ｈｏ…部材間の内法高さ
ＳＴ…あばら筋　　ＨＯＯＰ…帯筋　　Ｓ．ＨＯＯＰ…補強帯筋　　φ…直径

２．鉄筋加工、かぶり

（１）鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(*4d以上)	8d以上(*4d以上)

＊片持ちスラブ上端筋の先端
鉄筋は、SD295A, SD295B, SD345 を使用する。
折曲げ内法寸法Rは、D16以下は 3d以上、D19以上は 4d以上。

折曲げ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むＴ形およびＬ形梁のキャップタイにのみ用いる。



（２）鉄筋中間部の折曲げの形状　鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内のり寸法（R）
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SD295A SD295B、SD345	D16以下	3d以上
			D19～D25	4d以上
	上記以外の鉄筋	SD295A SD295B、SD345	D16以下	4d以上
			D19～D25	6d以上

（３）鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

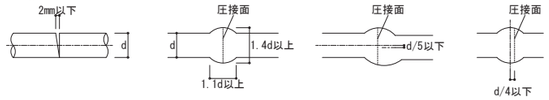
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm²)	定着の長さ 一般 (L2)	定着の長さ 下ば筋 (L3) 小梁	定着の長さ 下ば筋 (L3) スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ (L1)
SD295A SD295B SD345	21　24	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき
	18	40d または 30d フックつき			45d または 35d フックつき

コンクリートは普通Fc=18N/mm²以上 24N/mm²以下、軽量Fc=18N/mm²以上 21N/mm²以下

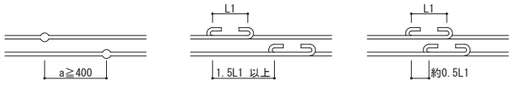
継　手

1．末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3．直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする

ガス圧接形状



圧接継手



重ね継手（下図のいずれかとする）

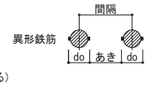
（４）かぶり厚さ　（単位：mm）

構造部分	最小かぶり厚さ	設計かぶり厚さ
屋根スラブ・床スラブ・片持ちスラブ**・非耐力壁	20＊	30＊
耐力壁・壁梁・小梁・片持ち梁	30＊	40＊
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上がり部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎（捨コンクリート部分を除く）	60	70

注）＊　耐久性上有効な仕上げがない場合は、屋内・屋外にかかわらず10mm増しとする。
また軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
＊＊　片持ちスラブ先端は、最小かぶり30mmとする。（8-(1)のⓐ参照）

（５）鉄筋のあき

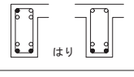
a．異形鉄筋では呼び名に用いた数値の1.5d以上
b．粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mm以上



（６）鉄筋のフック　（a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける）

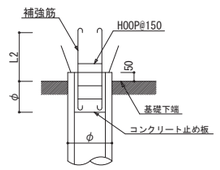
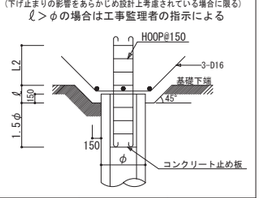
a．壁長が１m以下の壁横筋の末端
b．あばら筋、帯筋
c．煙突の鉄筋
d．柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）
e．単純梁の下端筋
f．その他、本配筋標準に記載する箇所

●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



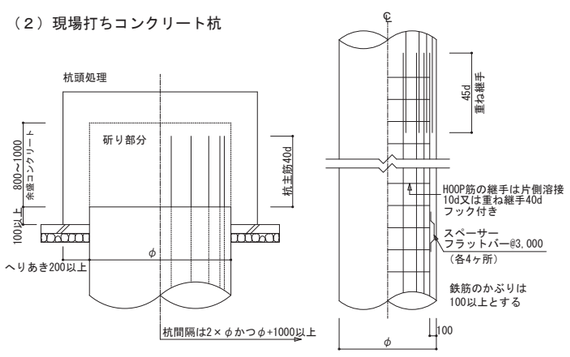
３．杭　（地震力等の水平力を考慮して、別途検討すること。）

（１）ＰＲＣ杭、又はＰＨＣ杭の全てに補強を行う

所定の位置に止まった場合	所定より低く止まった場合
	

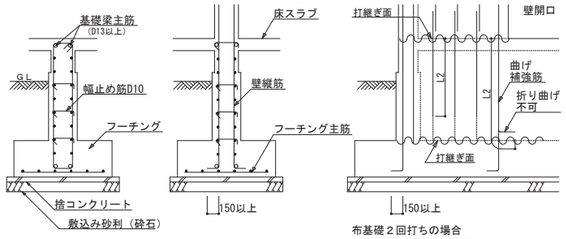
杭　径	300φ、350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16
ＨＯＯＰ	D10-@150				

（２）現場打ちコンクリート杭



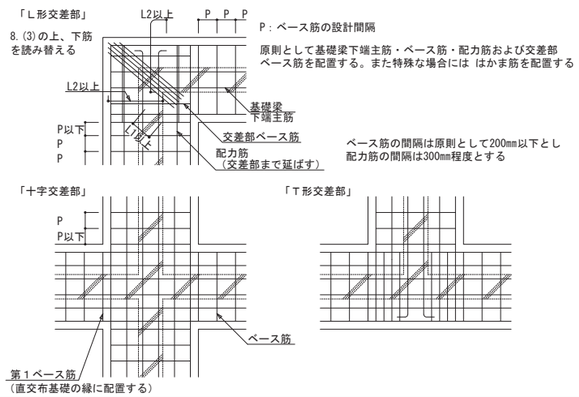
４．基　礎

（１）布基礎



布基礎２回打ちの場合
（フーチングと立上りを分ける）

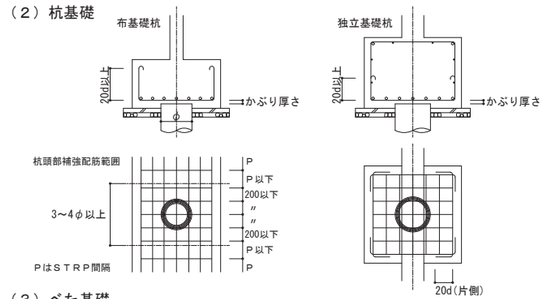
布基礎交差部の配筋（平面）



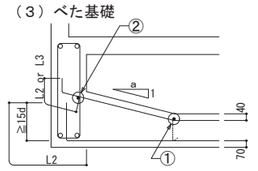
P：ベース筋の設計間隔
原則として基礎梁下端主筋・ベース筋・配力筋および交差部ベース筋を配置する。また特殊な場合には はかま筋を配置する

ベース筋の間隔は原則として200mm以下とし配力筋の間隔は300mm程度とする

（２）杭基礎

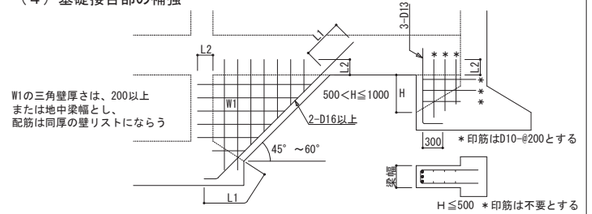


（３）べた基礎



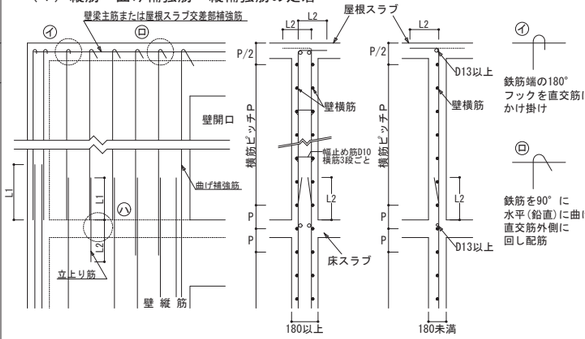
ハンチを付けた場合（ａ≧3）
1．耐圧版鉄筋の継手位置は8-(1)床スラブを参考とする。ただし上筋と下筋を読みかえる。
2．①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3．②の鉄筋はD13以上
4．埋戻し土のある場合は40を70とする

（４）基礎接合部の補強

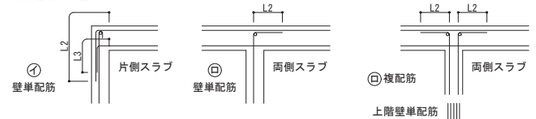


５．耐力壁

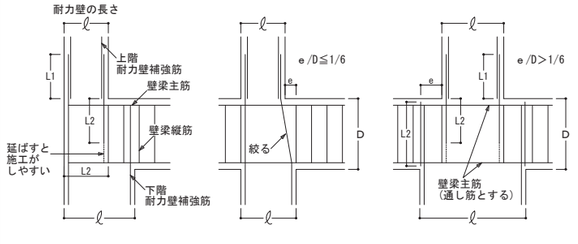
（１）縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定走



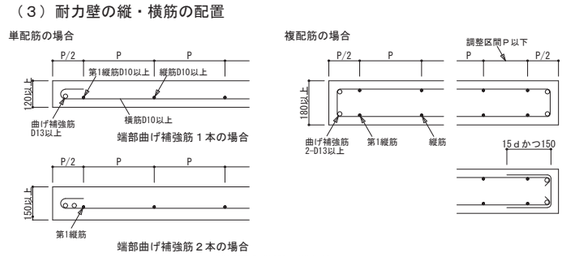
耐力壁と床・屋根スラブ



（２）上・下階耐力壁の各種配置



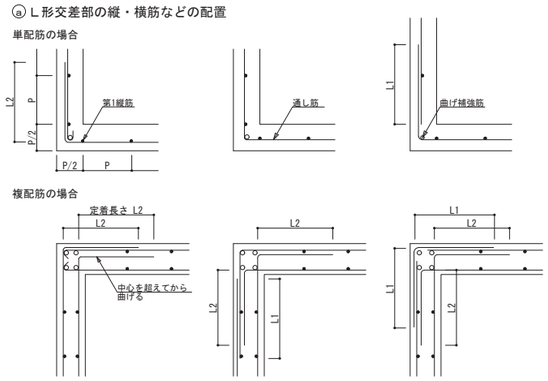
（３）耐力壁の縦・横筋の配置



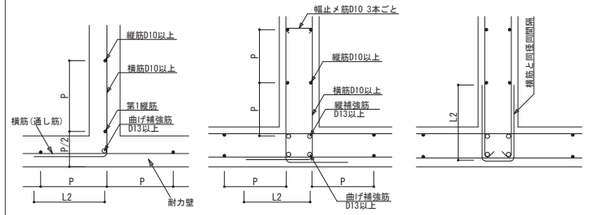
注）壁長1500以下の横筋はHOOP状に加工すること.

（４）耐力壁が交差する場合（平面）

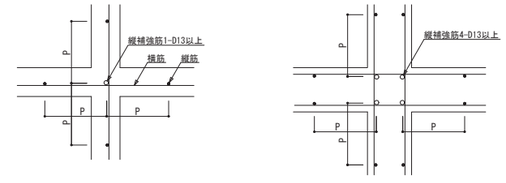
ⓐＬ形交差部の縦・横筋などの配置



ⓑＴ形交差部の縦・横筋などの配置



ⓒ十形交差部の縦・横筋などの配置



６．使用可能な鉄筋の最大径（標準）

部位 / 構造種別	耐力壁	壁梁 がりょう 小梁	布基礎 基礎梁	スラブ	非耐力壁	塀
壁式鉄筋コンクリート造	Ｄ２２	Ｄ２２	Ｄ２５	Ｄ１６	Ｄ１６	Ｄ１６

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	製　図
（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト	検　図
群馬県　　邑楽郡明和町	承　認
	日　付　2026.09.02
	縮　尺
株式会社 レーモンド設計事務所 東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111 一級建築士事務所登録　第８６８号 一級建築士登録　第178316号　関谷源次	設計番号 25-2782 図面番号 00U504 Ｓ－０２

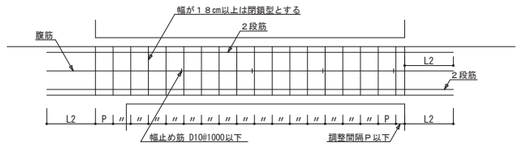
株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

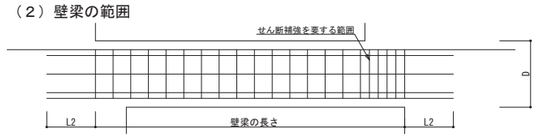
壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

７．壁梁、小梁

（１）壁梁の標準配筋図

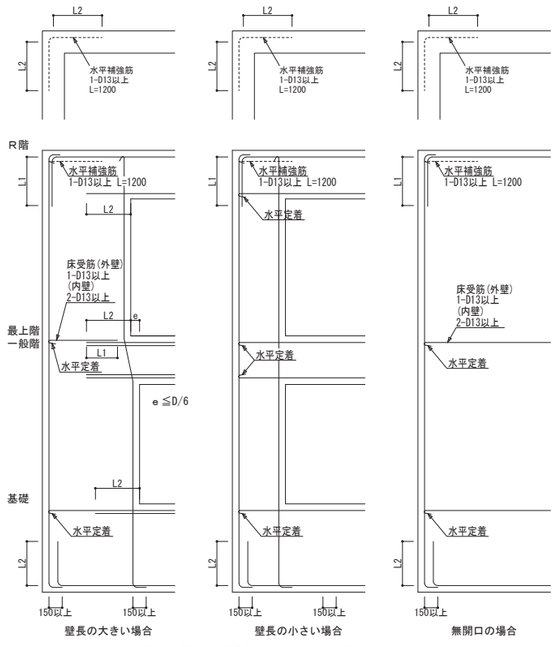


（２）壁梁の範囲



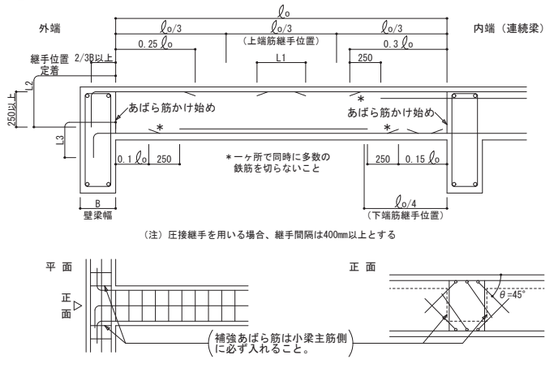
（３）定着

ⓐ壁梁　出隅部分壁と壁（平面図）

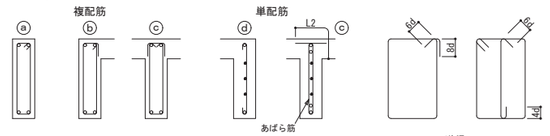


※梁主筋の重ね継手は原則として梁中間部に設けない。

ⓑ小梁の定着・継手位置およびトップ筋長さ

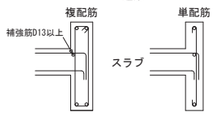


（４）あばら筋の型



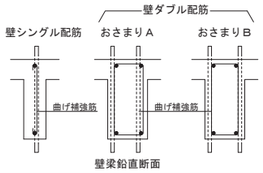
（イ）原則として ⓐ のフック先曲とする。
片側床版付（Ｌ型）梁で ⓑ
両側床版付（Ｔ型）梁で ⓒ とすることができる。
（ロ）フックの位置は ⓐ にあっては交互、
ⓑ にあってはスラブ付側とする。

逆梁



（５）壁梁と壁のおさまり

壁梁の幅は耐力壁の厚さ以上とする。



梁幅の最小寸法（構造体寸法）　（単位：mm）

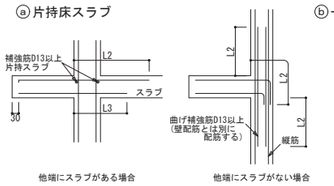
おさまり	はり主筋	曲げ補強筋 D13	曲げ補強筋 D16	おさまり	はり主筋	曲げ補強筋 D13	曲げ補強筋 D16
A	D13	180	180	B	D13	195	200
	D16	180	190		D16	195	210
	D19	190	200		D19	205	220

(注)かぶり厚さ40mmの場合

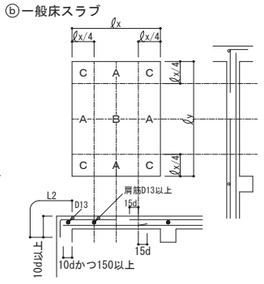
８．床板

（１）定着および継手

ⓐ片持床スラブ



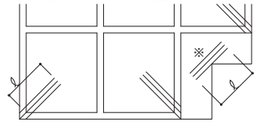
ⓑ一般床スラブ



継手位置は原則として下表による。

		標準継手位置
上端筋	短辺方向	B
	長辺方向	B
下端筋	短辺・長辺方向	A C

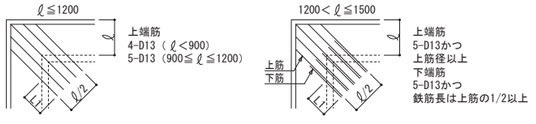
（２）屋根スラブの補強



ⓐ補強筋は各3-D13 またはスラブ主筋の同一径で
ℓ=1500とし、上端筋の下に配筋する

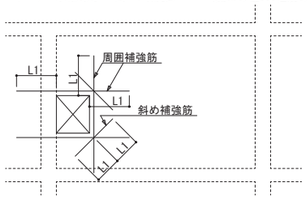
ⓑ※の個所（入隅）は各階補強する

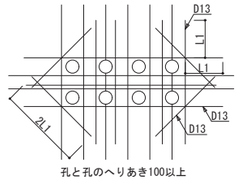
（３）片持ちスラブ出隅部補強



（４）床版開口部の補強

（開口の径500程度の場合）

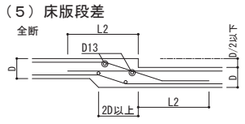


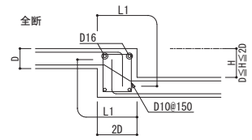


床版厚さD	周囲	斜め
D≦150	各2-D13	各1-D13
150＜D≦200	各2-D13	各1-D13

注）設備の小開口が連続してあく場合は
縦、横、斜補強筋とは別に開口によって
切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて
補強する。

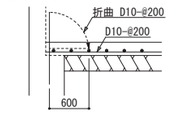
（５）床版段差



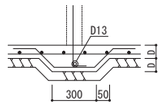


（６）土間コンクリート

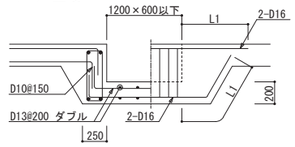
ⓐ軽作業の土間



ⓑ間仕切壁との交差部



（７）釜場

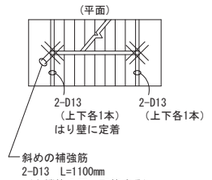


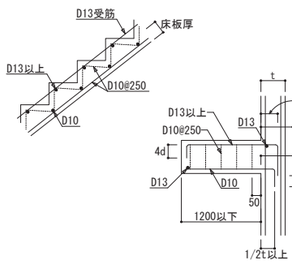
（８）打継ぎ補強　（ダメ穴打継面について）

・設計配筋間隔の1/2ピッチ　長さ2×L1以上
・無筋部分D10-@200　長さ800以上

９．階段

片持ち階段

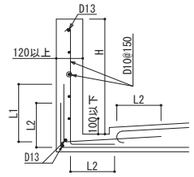




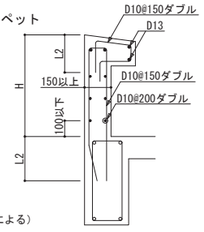
10．その他

（１）手摺、パラペット

手摺



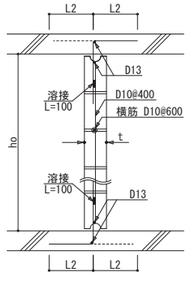
パラペット



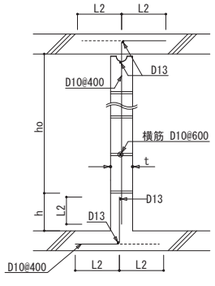
（ただし H>800 以上の場合、設計図による）

（２）コンクリートブロック帳壁

一般の場合



下部防水立上りのある場合



注）ho≦25tかつ3500以下とする。ただし直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く。
注）hはコンクリートブロック段数調節寸法とする。ただし、200≦h≦400。
注）鉄筋挿入部は必ずモルタルを充填すること。

11．梁貫通孔補強

（１）既製品　（使用するときには、設計者又は工事監理者と打合せのこと）
□リング型　□パイプ型　□金網型　□プレート型

（２）鉄筋基準配筋　ただし φ≦D/3とする
設置可能範囲　梁端部（スパン L/10以内かつ D以内）は避ける

80≦φ≦100	100＜φ≦150	150＜φ≦250
折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST 2-D13@100	折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST 2-D13@50 横筋 2-(2-D13) 上下縦筋 ST 2-D13@50	斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST 2-D13@50 横筋 2-(2-D13) 上下縦筋 ST 2-D13@50
孔補強の有効範囲と定着長さのとり方 ※部分について計算で確認された場合は右記の位置、寸法によらなくて良い。 		(φ1＋φ2)×3/2以上

貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）	製図
（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト	検図
群馬県　邑楽郡明和町	承認
	日付 2026.09.02
	縮尺
株式会社 レーモンド設計事務所 東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111 一級建築士事務所登録　第８６８号 一級建築士登録　第178316号　関谷源次	設計番号 25-2782
	図面番号 00U504
	S－０３

株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

木質構造標準仕様書（１）

（１）耐力壁の種類

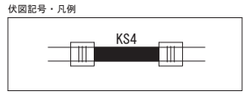
記　号	外周釘ピッチ（mm）	外周以外の釘ピッチ（mm）	面材種類	釘仕様
ＫＳ１（Ｗ）	１５０	１５０	G-BOARD（構造用パーティクルボード 厚9mm）	ＴＮ５０（ＳＥ構法専用釘）
ＫＳ２（Ｗ）	１００			
ＫＳ３（Ｗ）	７５			
ＫＳ４（Ｗ）	５０			

※ＫＳ４（Ｗ）の真壁は、枠材などの施工注意。

■ 共通事項

・G-BOARDは、ＳＥ構法の専用パーティクルボードです。
・耐力壁は、面材を止める釘の間隔を50～150mmに区別して設計されています。
（耐力壁以外の壁の釘間隔は、200mm以上で施工のこと。）
（耐力壁以外の壁の釘指定は、ないものとする。）
・使用する釘は、ＴＮ釘に限る。
・"Ｗ"は両面張りを示す。

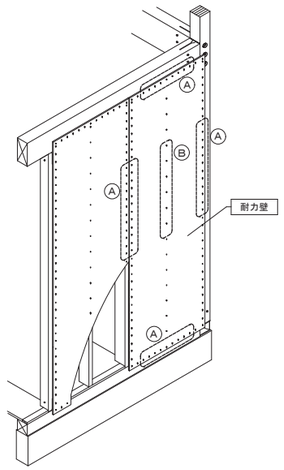
伏図記号・凡例



■ 耐力壁施工方法

(a) 耐力壁は必ず縦貼りにして使用すること。
(b) 耐力壁施工後釘ピッチ等を確認して、すみやかに設計者及び監理者に報告すること。
(c) 耐力壁にやむを得ず開口部を作らなければならない時は、監理者に確認し、指定の方法にて補強すること。
指定の方法が無い場合、本仕様書に従い補強すること。
(d) 耐力壁仕様については構造図優先にて施工のこと。

（２）耐力壁の施工の注意点



耐力壁の施工は、伏図に記された耐力壁位置と記号に従い、
面材種類・釘種類・釘間隔に注意して施工してください。

Ａ：構造面材の外周釘

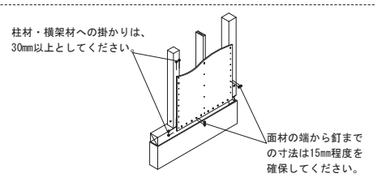
面材の外周は耐力壁の記号の釘ピッチを遵守してください。

Ｂ：中間部の間柱の釘

釘ピッチを150mmとしてください。

使用する面材釘

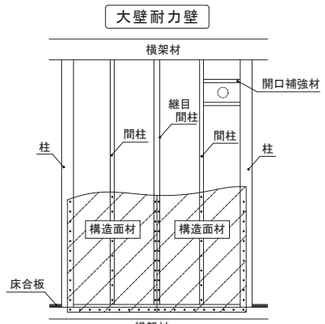
必ず指定釘をご利用下さい。
ＫＳ、ＧＳ、ＭＳシリーズ：ＴＮ５０
ＢＮシリーズ：ＣＮ６５
上記以外　　：ＣＮ５０



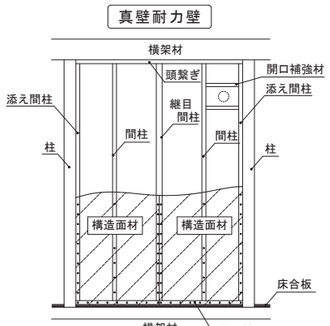
【注意事項】
・上下階の面材は、6mm以上隙間を開けて施工してください。

（３）耐力壁の概要

大壁耐力壁



真壁耐力壁



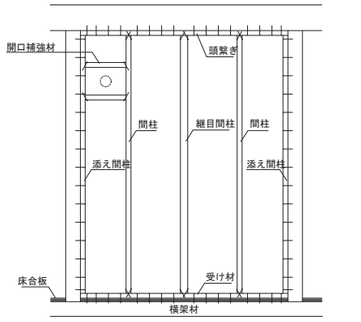
※大壁耐力壁は、床合板を優先することも可能です

（４）間柱・頭繋ぎ・受け材の施工

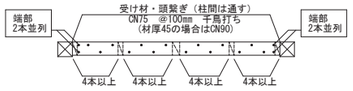
・部材は、腐食・割れがなく、節の少ない乾燥した材料を用いる。
・部材は、隙間なく施工する。
・頭繋ぎ・受け材は、１本ものとする。

［ 間柱、継目間柱 ］
・間柱は、1/2P以内で配置する。
・材寸は、30×90mm以上とする。
・端部は、釘CN75-3本で斜め釘打ちで固定する。

［ 頭繋ぎ、受け材、添え間柱 ］
・材寸は、間柱と同寸以上とする。
・材寸は、釘CN75で固定する．（材厚45mmの場合は釘CN90）
・端部は、並列に１本ずつ固定する。
・頭繋ぎ・受け材は、中間部を@100以内の千鳥打ちで固定する。
・頭繋ぎ・受け材は、間柱の間を４本以上で固定する。
・添え間柱は、中間部を@150以内の千鳥打ちで固定する。

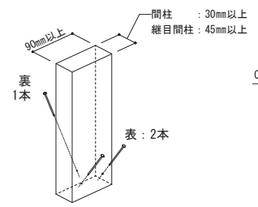


※枠材の断面寸法公差は
-3mmとします。

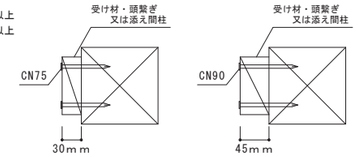


◆◆ 間柱・継目間柱の端部の固定 ◆◆

CN75 3本で固定（2本 + 1本）

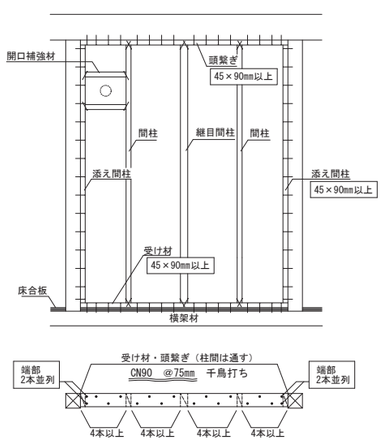


※間柱を横架材に直接固定する場合も同じ方法



※受け材、頭繋ぎ、添え間柱に45mm厚を使用する場合は固定釘をＣＮ９０としてください。

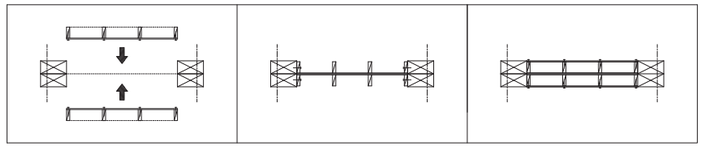
（４-１）間柱・頭繋ぎ・受け材の施工 ／ ＫＳ４（Ｗ）真壁



※枠材の断面寸法公差は
-3mmとします。

（５）二重壁の施工手順について

・下図は参考例のため、現場にて調整を行うこと。
・必ず耐力壁の釘ピッチを確認の上、施工を行うこと。

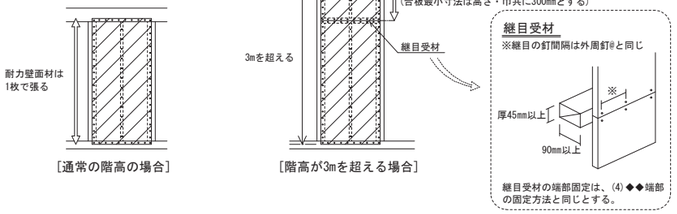


①内側の壁を枠材と組み合わせ、パネルを作成する。
（耐力壁釘ピッチと枠材の大きさは、構造図参照）

②耐力壁枠材を柱に打ち付ける。

③外部側の壁合板を施工する。
（真壁・大壁、どちらでも可）

（６）やむを得ず耐力壁面材を縦に継ぐ場合



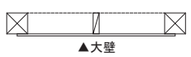
耐力壁の面材は以下の例外を除き、横架材間を1枚もので張ることが基本です。
耐力壁の面材は、階をまたがないように貼ってください。

⚠ 3m以下の階高で継目を入れると、計算上の耐力壁性能を発揮できません。

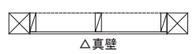
●横架材間が３ｍを超える場合等
・縦目受材は、耐力壁間柱と同等の品質のものとします。
・縦目受材は、45mm×90mm以上とする。
・縦目受材は、外周釘と同じ釘間隔で固定する。
・階高が4.5mを超える場合の継ぎ目受け材は、120mm×120mm以上とする。

（７）主な耐力壁の組み合わせと間柱の寸法

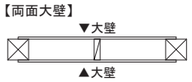
【片面大壁】



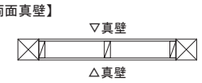
【片面真壁】



【両面大壁】



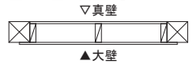
【両面真壁】



【大壁】	部材	一般寸法	最小寸法
片面大壁	間柱	30×120	30×90
	受け材・頭繋ぎ 添え間柱		
	継目間柱	45×120	45×90
両面大壁	間柱	30×120	30×90
	受け材・頭繋ぎ 添え間柱		
	継目間柱	45×120	45×90

【真壁】	部材	一般寸法		最小寸法
		面材9mm	面材12mm	
片面真壁	間柱	30×111	30×108	30×90
	受け材・頭繋ぎ 添え間柱			
	継目間柱	45×111	45×108	45×90
両面真壁	間柱	30×102	30×96	30×90
	受け材・頭繋ぎ 添え間柱			
	継目間柱	45×102	45×96	45×90

【併用壁（大壁・真壁）】



【併用壁】	部材	一般寸法		最小寸法
		面材9mm	面材12mm	
併用壁 大壁 真壁	間柱	30×111	30×108	30×90
	受け材・頭繋ぎ 添え間柱			
	継目間柱	45×111	45×108	45×90

※受け材、添え間柱に45mm厚を使用する場合は固定釘をＣＮ９０としてください。
※45mmを超える厚さを使用する場合はＮＣＮへ相談のこと。
※枠材の樹種は次のいずれかとし、乾燥材で欠損ないものを使用すること。
（ベイツガ・ベイマツ・スギ・スプルース）
※ＫＳ４（Ｗ）枠材は、（４-１）参照。

株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

木質構造標準仕様書（１）耐力壁編（Ver.3）	
（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト	
群馬県　邑楽郡明和町	
製図	
検図	
承認	
日付	2026.09.02
縮尺	
設計番号	25-2782
図面番号	0D0504 S－０４

株式会社レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録　第８６８号
一級建築士登録　第178316号　関谷源次

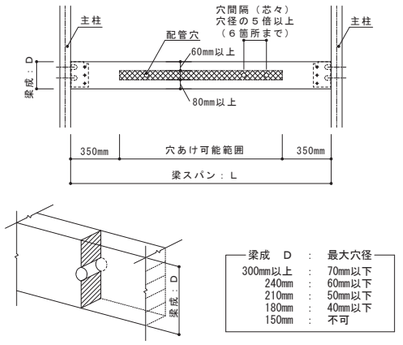
木質構造標準仕様書（２）

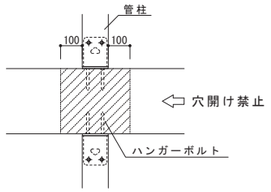
１．設備施工

（１）梁(側面)の穴開け

【穴径：φ７０㎜以下の場合】

・穴あけは、梁１部材あたり ６箇所までとする。
・穴を開けることが可能な範囲は、下図 ▨ の範囲とする。



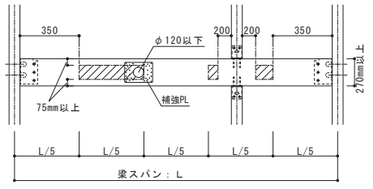


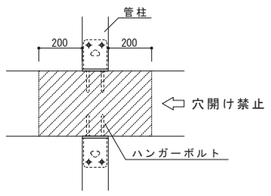
梁成　D	：	最大穴径
300㎜以上	：	70㎜以下
240㎜	：	60㎜以下
210㎜	：	50㎜以下
180㎜	：	40㎜以下
150㎜	：	不可

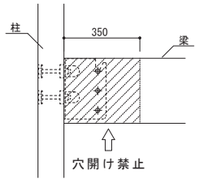
【穴径：φ７０㎜超えの場合】

・柱スパンを５等分し、その中央と両端の範囲は加工しない。
・穴径は、φ120㎜以下とする。
・梁１部材あたり、１箇所までとする。
・穴を開けることが可能な範囲は、下図 ▨ の範囲とする。
・梁の両側面に補強プレートを施工すること。

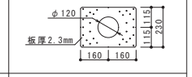
●設備配管穴の開けられる範囲







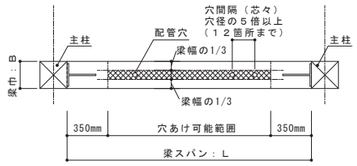
●補強プレートの仕様

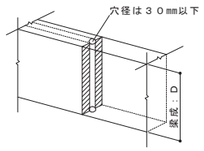
対応梁成	270㎜以上
形状	
専用ビス	片側 30本

⚠ 規定以外の方法で是正を行った場合、ＳＥ構法の構造性能を保証できません。

（２）梁(上下面)の穴開け

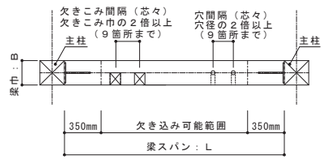
・穴あけは、梁１部材あたり １２箇所までとする。
・穴を開けることが可能な範囲は、下図 ▨ の範囲とする。
・管柱側面から100㎜以内は、加工しない。（穴あけ側面図参照）

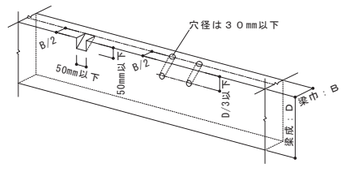




（３）梁(上面)　斜めの穴あけ・欠込み

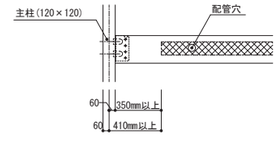
・穴あけは、梁１部材あたり ９箇所までとする。
・管柱側面から100㎜以内は、加工しない。（穴あけ側面図参照）
・梁下面の欠きこみは禁止とする。（間柱欠き５㎜以下の場合を除く）

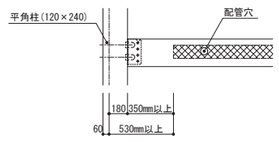


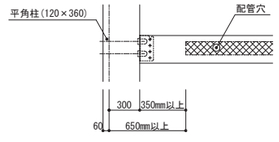


（４）端あき寸法について

・柱サイズを確認の上、穴あけ位置を決定すること。

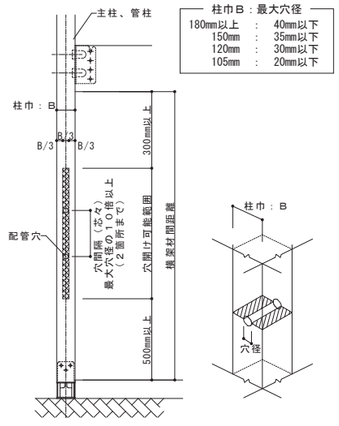






（５）柱の穴開け

・穴あけは、１部材あたり ２箇所までとする。
・穴を開けることが可能な範囲は、下図 ▨ の範囲とする。

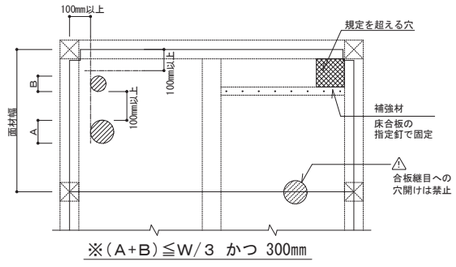


柱巾Ｂ：最大穴径		
180㎜以上	：	40㎜以下
150㎜	：	35㎜以下
120㎜	：	30㎜以下
105㎜	：	20㎜以下

（６）床合板の穴開け

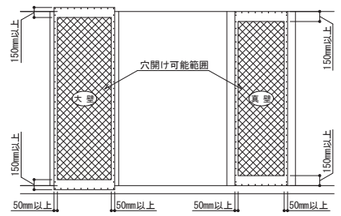
●基本事項
・面材の端から 100㎜以内は加工しない。
・面材の継ぎ目には加工しない。
・穴開けの巾の合計は、施工する構造面材の巾の1/3以下かつ300㎜以下とする。
[穴幅の合計]≦[面材幅／3]　かつ　[穴幅の合計]≦300㎜
・補強不要な穴開けの寸法は、丸穴で200㎜、角穴で150㎜以下とする。

●床合板の補強
・床下収納や床下点検口を設ける場合は、床合板と適宜補強してください。
※その他、床に重量物を置く場合（ピアノ、重い水槽等）



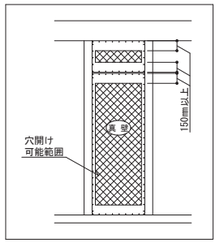
（７）耐力壁の穴開け

・耐力壁に穴を開ける場合は以下の基準とする。
・穴を開けることが可能な範囲は、下図 ▨ の範囲とする。



合板の端距離の確保
上下端：150㎜以上
左右端：　50㎜以上

※面材を継ぐ場合
各合板の上下端を150㎜以上とする。

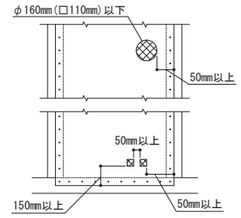


●耐力壁の穴開けの共通事項
・面材１枚に可能な穴開けは、補強の有無に限らず、合計４箇所までとする。
・面材の上下端から150㎜以内に加工しない。
・面材の左右端から50㎜以内に加工しない。
・下記の特例を除き、横に並べて穴あけをしない。
・穴開けの最大寸法は、施工する構造面材の巾の1/3以下とする。

Ａ：開口補強が不要な場合

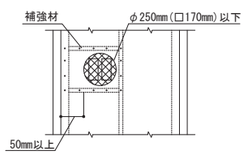
開口寸法≦φ160㎜(□110㎜)
・丸穴で160㎜、角穴で110㎜以下とし、１枚の面材に２箇所までとする。

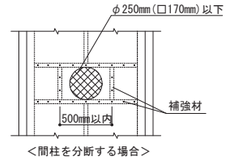
横並び可能な穴あけ
・穴の寸法は、φ50㎜以下もしくは□35㎜以下とする。
・50㎜以上の間隔をあけた場合、２か所まで横に並べて良い。



Ｂ：開口補強が必要な場合

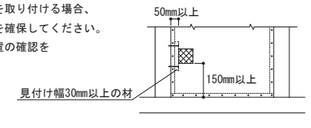
φ160㎜(□110㎜)＜開口寸法≦φ250㎜(□170㎜)
・丸穴で250㎜、角穴で170㎜以下とし、１枚の面材で２箇所までとする。
（上記の範囲内に複数の穴あけをする場合、１箇所の穴あけとみなす。）
・補強材は、間柱と同じ樹種とする。
・補強材は、端部をCN75-2本以上で固定する。
・開口周囲の間柱・補強材は、外周釘と同じ間隔で固定する。

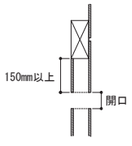




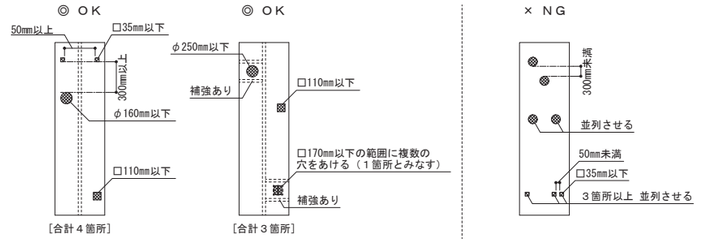
＜間柱を分断する場合＞

●真壁納まりの注意事項
・真壁納まりの場合で柱に直接コンセントボックスを取り付ける場合、右図のように補強材を施工し、合板端からの距離を確保してください。
・併用壁の場合は、内部の真壁を基準として開口位置の確認をを行ってください。





【穴開けの例】



株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号
一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

木質構造標準仕様書（２） 設備施工編（Ver.3）	製図
（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト	検図
群馬県　邑楽郡明和町	承認
	日付　2026.09.02
	縮尺

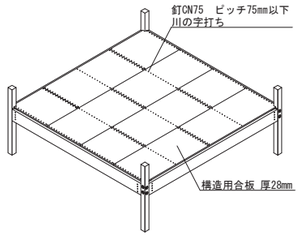
株式会社 レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録　第８６８号
一級建築士登録　第178316号　間谷 源次

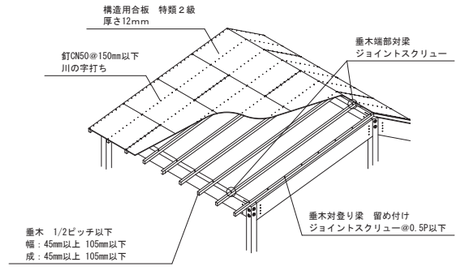
設計番号	25-2782
図面番号	00U504 S－05

木質構造標準仕様書（３）

１．水平構面

合板厚28㎜+CN75@75	垂木構面(登り梁,垂木1/2P以下)





２．使用部材リスト

・ＥＷは構造用集成材を示し、ＪＡＳ規格品を使用する。（含水率15%以下）

名称	記号	サイズ 幅 × 成	接合金物	材料区分	等級	備考
土台		120 × 120	―	桧ＥＷ	E95-F315以上	同一等級構成
横架材 桁・梁 母屋		120～×150～	金物図による	欧州赤松ＥＷ	E105-F300以上	対称異等級構成
柱		120～ × 120～	金物図による	欧州赤松ＥＷ	E95-F315以上	同一等級構成
		120 × 150～	金物図による	欧州赤松ＥＷ	E105-F300以上	対称異等級構成
小屋束	○	120 × 120	金物図による	欧州赤松ＥＷ	E95-F315以上	同一等級構成

名称	記号	面材	接合具	符号	備考
耐力壁	(片面貼り) 符号W (両面貼り)	構造用 パーティクルボード 厚９	TN50@150	KS1/KS1W	
		構造用 パーティクルボード 厚９	TN50@100	KS2/KS2W	
		構造用 パーティクルボード 厚９	TN50@75	KS3/KS3W	
		構造用 パーティクルボード 厚９	TN50@50	KS4/KS4W	

３．屋根ふき材の検討

※立ハゼふきの屋根にて、屋根材を固定するつり子の固定方法の検討を行う。

屋根形状	片流れ			
屋根ふき材	鋼板(立平ふき)			
平面の短辺長さ	13.2	m		
働き幅	303	㎜		
ビスの径	4.2	㎜		
ビスの打ち込み長さ	12	㎜		
1本当たりのビスの耐力	230	N		
単位面積当たりの引抜き耐力	1672	N／㎡	一般部:ビス間隔	455mm
単位面積当たりの引抜き耐力	2511	N／㎡	補強部:ビス間隔	303mm

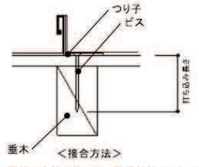
ビスの引抜き耐力の計算式
木質構造設計基準より
pw＝38.1×γo^1.5×d×lr
pa=1/3×Kd×Km×pw

別紙風圧力の検討より、吹き上げ荷重に対する検討＞

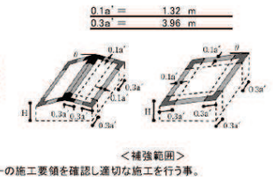
一般部	1052	≦	1672	N／㎡	ビス間隔	455mm	･･･ OK
周辺部	1347	≦	1672	N／㎡	ビス間隔	455mm	･･･ OK
軒角部	1810	≦	2511	N／㎡	ビス間隔	303mm	･･･ OK
					ビス間隔		

以上により、安全と判断する。

特記事項＞
・つり子の板の厚さは、潰板と同寸以上とし、通し吊子を標準とする。
・固定ビスは木下地用のものとし、径4.2㎜以上、打ち込み長さは12㎜以上とする。(L25㎜程度)



＜接合方法＞



＜補強範囲＞

※ 屋根ふき材の施工は、屋根部材メーカーの施工要領を確認し適切な施工を行う事。

株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号
一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

木質構造標準仕様書（３）
水平構面・使用部材リスト（Ver.3）
（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト
群馬県　邑楽郡明和町

株式会社レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録　第８６８号
一級建築士登録　第178316号　関谷 源次

製図	
検図	
承認	
日付	2026.09.02
縮尺	
設計番号	25-2782
図面番号	0D0504 S－０６

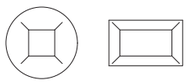
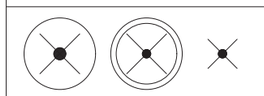
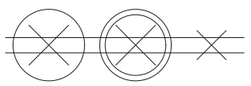
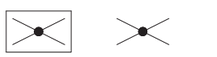
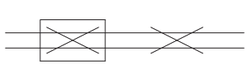
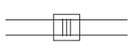
木質構造標準仕様書（４）

伏図記号凡例表

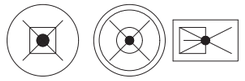
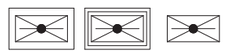
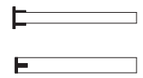
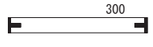
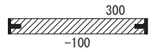
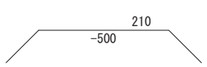
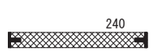
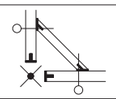
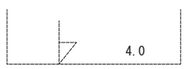
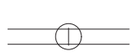
土台伏図の表示

部材伏図記号	名 称	標準寸法(mm)	接合名称	詳細説明
	通し柱 （主柱）	120～×120～	柱脚金物:PB12, PB15, PX12 柱頭金物:CF12, M10 柱頭:カット	・基礎に直接金物を介して取り付ける柱を示す ・口の中の線は金物のスリット方向を示す ・梁勝ちの場合、柱頭金物はCF12, M10金物 ・接合名称のカットとは柱勝ちを示す ※120角柱以外の場合は注記あり
	柱	120～×120～	柱脚金物:PB12, PB15, PX12 柱頭金物:CF12, M10 柱頭:カット	・基礎に直接金物を介して取り付ける柱を示す ・1階の柱のみ ・口の中の線は金物のスリット方向を示す ・梁勝ちの場合、柱頭金物はCF12, M10金物 ・接合名称のカットとは柱勝ちを示す
	通し平角柱	120～×240 120～×300 120～×360	柱脚金物: PB24, PX24, PB36 柱頭金物:CF12, M10 柱頭:カット	・基礎に直接PB金物を介して取り付ける柱を示す ・口の中の線は金物のスリット方向を示す ・梁勝ちの場合、柱頭金物はCF12, M10金物 ・接合名称のカットとは柱勝ちを示す
	平角柱	120～×240 120～×300 120～×360	柱脚金物: PB24, PX24, PB36 柱頭金物:CF12, M10 柱頭:カット	・基礎に直接PB金物を介して取り付ける柱を示す ・1階の柱のみ ・口の中の線は金物のスリット方向を示す ・梁勝ちの場合、柱頭金物はCF12, M10金物 ・接合名称のカットとは柱勝ちを示す
	土台	120×120	端部:カット	・柱脚金物部分を避ける ・土台端部はカットとし、アンカーボルトM12にて基礎に固定

各階伏図の表示

部材伏図記号	名 称	標準寸法(mm)	接合名称	詳細説明
	通し柱 通し平角柱	120～×120～ 120～×240 120～×300 120～×360		・下階から上階へ通る通し柱（平角柱） ・通し柱の接合名称は、柱の下端の伏図に示す
	２階通し柱 ２階通し平角柱	120～×120～ 120～×240～ 120～×300～ 120～×360～		・2階から上階へ通る通し柱（平角柱） ・通し柱の接合名称は、柱の下端の伏図に示す
	通し柱 管柱	120～×120～		・下階の柱のうち、当該階の梁天端まで又は、当該階の中間までの高さの柱を示す
	通し柱 管柱	120～×120～		・下階の柱のうち、当該階の梁下に固定しているものを示す
	通し平角柱 管平角柱	120～×240 120～×300 120～×360		・下階の柱のうち、当該階の梁天端まで又は、当該階の中間までの高さの柱を示す
	通し平角柱 管平角柱	120～×240 120～×300 120～×360		・下階の柱のうち、当該階の梁下に固定しているものを示す
	管柱	105～×105～	柱頭・柱脚金物: CF1224, CF12, M10 柱頭:カット	・横架材の上に金物を取り付ける ・横架材間に取り付ける管柱を示す ・口の中の線は金物のスリット方向を示す ・接合名称のカットとは柱勝ちを示す ※120角柱以外の場合は注記あり
	管柱	105～×105～	柱頭・柱脚金物: CF12, M10, CF1224 柱頭:カット	・横架材の上に金物を取り付ける ・横架材間に取り付ける管柱を示す ・口の中の線は金物のスリット方向を示す ・接合名称のカットとは柱勝ちを示す
	管柱	120～×240～	柱頭・柱脚金物: CF1224, CF1236 柱頭:カット	・横架材の上に金物を取り付ける ・横架材間に取り付ける管柱を示す ・口の中の線は金物のスリット方向を示す ・接合名称のカットとは柱勝ちを示す ※120角柱以外の場合は注記あり
	管柱	120～×240～	柱頭・柱脚金物: CF1224, CF1236 柱頭:カット	・横架材の上に金物を取り付ける ・横架材間に取り付ける管柱を示す ・口の中の線は金物のスリット方向を示す ・接合名称のカットとは柱勝ちを示す

各階伏図の表示

部材伏図記号	名 称	標準寸法(mm)	接合名称	詳細説明
	柱のジョイント	120～×120～	柱脚金物:FJ12 柱頭金物:CF12, M10 柱頭:カット	・通し柱＋管柱，通し柱＋小屋束，平角柱＋管柱等のジョイントを示す ・接合名称のカットとは柱勝ちを示す
	平角柱のジョイント	120～×240 120～×300 120～×360	柱脚金物:FJ24 柱頭金物：CF12, M10 CF1224, CF1236 柱頭:カット	・通し平角柱＋管平角柱，管平角柱＋２階通し平角柱 管平角柱＋管平角柱などのジョイントを示す ・接合名称のカットとは柱勝ちを示す
	大引・梁	105×105 120×120	端部金物:SB1, SB2, M10 端部:カット	・M10は、SB1, SB2金物が使用できない場合に使用
	梁・母屋 （横架材）	幅:105～ 成:150～	端部金物: FB0, FB1, FB2, FB3, JB3, JB4	・端部をFB0～JB4金物にて取り付ける ・端部注記は接合金物を示す ・上の数字は梁成を示す
	梁・母屋 （横架材）	幅:105～ 成:120～	端部金物: FB0, FB1, FB2, FB3, JB3, JB4	・梁のうち、基準レベルから高低差がある部材を示す ・上の数字は梁成を示す ・下の数字は基準レベルからの高低差を示す
	梁・母屋 （横架材）	幅:105～ 成:120～	端部金物: FB0, FB1, FB2, FB3, JB3, JB4	・平面上同じ位置に複数の梁があり、サブレイヤに部材が配置されている事を示す ・上の数字は梁成を示す ・下の数字は基準レベルからの高低差を示す
	登梁	幅:120～ 成:150～	上端金物:FB#D-α, JB#D-α 下端金物:FB#U-α, JB#U-α 下端金物:CF12	・数字は登梁の梁成を示す ・接合名称の#には梁成に応じ、1～4の数値が対応する ・接合名称のαには勾配に応じ、1～10, 12.5の数値が対応する
	火打金物		ボルトM12	・鋼製火打金物を示す ・Ｚマーク金物同等品とする
	木火打	105×105 120×120	端部:ボルトM16＋リング	・木製火打梁を示す ・端部はM16ボルトとリングにて固定
	屋根勾配			・上部に屋根がかかる部分を示す ・矢印は水下の方向を示す ・数字は屋根勾配(寸勾配)を示す
	小屋束	105～×105～	柱脚金物:CF12, M10 柱頭金物:CF12, M10 柱頭:カット 柱脚:角ホゾ	・横架材の上にCF12又はM10金物にて取り付ける ・横架材間に取り付ける管柱を示す ・〇の中の線は金物のスリット方向を示す ・材長の短い小屋束は角ホゾとし、補強金物(VP等)で補強する

株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

木質構造標準仕様書（４） 伏図凡例（Ver.3） （仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト 群馬県　邑楽郡明和町	製 図 検 図 承 認 日 付　2026.09.02 縮 尺
株式会社 レーモンド設計事務所 東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111 一級建築士事務所登録　第８６８号 一級建築士登録　第178316号　関谷源次	設計番号 25-2782
	図面番号　0DU504 S－07

木質構造標準仕様書（５）

金物詳細図

金物取り付け時の注意

（１）柱脚金物 ＰＢ・ＰＸ金物

a. 柱脚金物配置位置については、加工承認図を優先するものとし、金物の向きもこれに従うこと。
b. 金物方向の変更を余儀なくされる時は、必ず設計者へ報告し、承認を受けること。
c. アンカーボルトとの位置にずれが生じた場合は、必ず設計者へ報告し、本仕様書に設計者の指示のもとで対処すること。
d. 設計者の指示無く、柱脚用アンカーボルト位置を変更することは禁止とする。

（２）柱金物（ＣＦ・Ｍ１０）

a. ＣＦ　…下穴アリ　ボルトにて緊結のこと。
b. Ｍ１０…下穴アリ　付属ビス（L=75mm）4本にて固定のこと。

（３）梁金物（ＦＢ、ＪＢシリーズ）

a. 金物取付き梁において、梁上下確認の上、最上段のドリフトピン穴にはあらかじめドリフトピンを打ち込んでおくこと。（梁の取り付け時に、金物に引っ掛けるため）
b. 柱に予め取り付けられた梁金物は、搬入後ボルトの締付けを再確認すること。（搬送中に緩みを生じることがあります。）

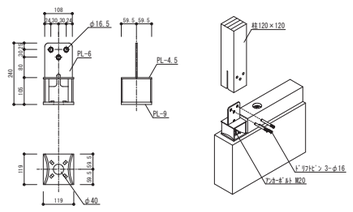
（４）柱継金物（ＦＪ）　・・・施工順序注意のこと。

① 上柱に金物を差込み、ドリフトピンを用いて固定する。
② 上柱を立て、下柱側のドリフトピンを打ち込む。

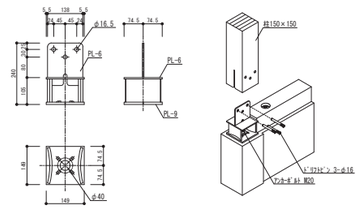
（５）登り梁金物（ＣＦ、ＴＰ）

a. ＣＦ…　登り梁下部固定用金物（下穴アリ）ハンガーボルトもしくは貫通ボルトにて緊結のこと。
　　登り梁のドリフトピン位置、梁からの金物のこぼれについては、設計者及び施工承認図にて確認のこと。
b. ＴＰ…　登り梁頭頂部連結用金物（プレート）梁を水平に寝かせた状態での取り付けを推奨する。
　　角度を保持した後、屋根部まで吊り上げ施工することが望ましい。

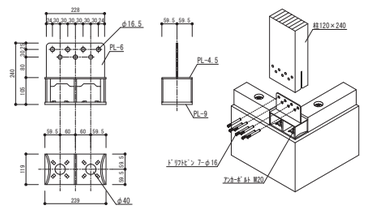
金物名称	PB12	接合部材	柱 材	適応サイズ	120以上 × 120以上



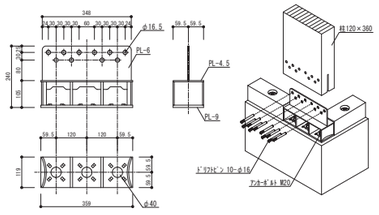
金物名称	PB15	接合部材	柱 材	適応サイズ	150以上 × 150以上



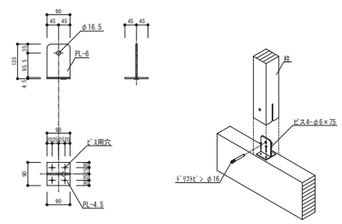
金物名称	PB24	接合部材	柱 材	適応サイズ	120以上 × 240以上



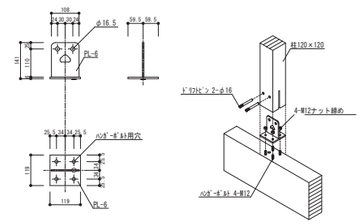
金物名称	PB36	接合部材	柱 材	適応サイズ	120以上 × 360以上



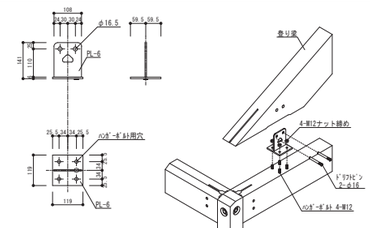
金物名称	M10	接合部材	柱 材	適応サイズ	105以上 × 105以上



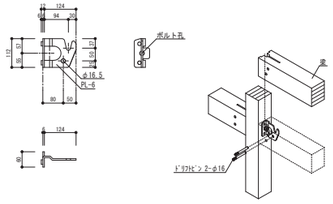
金物名称	CF12	接合部材	柱・横架材	適応サイズ	120以上 × 120以上



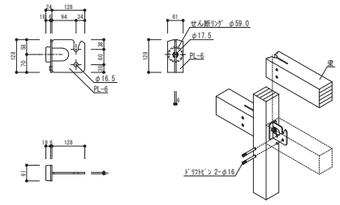
金物名称	CF12	接合部材	柱・横架材	適応サイズ	120以上 × 210以上



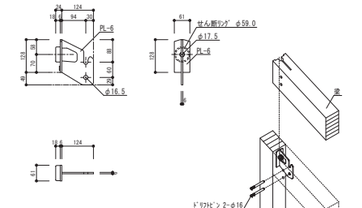
金物名称	FB0	接合部材	横架材	適応サイズ	120以上 × 120以上



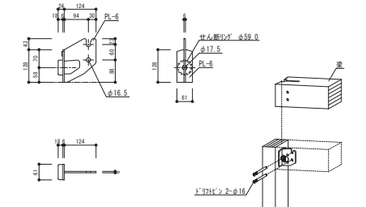
金物名称	FB1	接合部材	横架材	適応サイズ	120以上 × 150以上



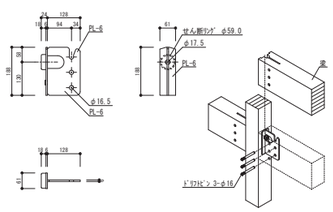
金物名称	FB1D-5	接合部材	横架材	適応サイズ	120以上 × 150以上



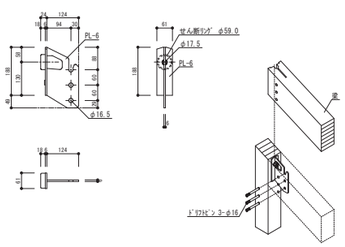
金物名称	FB1U-5	接合部材	横架材	適応サイズ	120以上 × 150以上



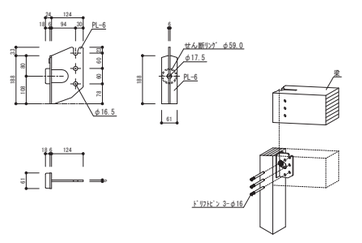
金物名称	FB2	接合部材	横架材	適応サイズ	120以上 × 210以上



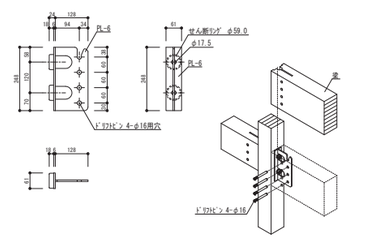
金物名称	FB2D-5	接合部材	横架材	適応サイズ	120以上 × 210以上



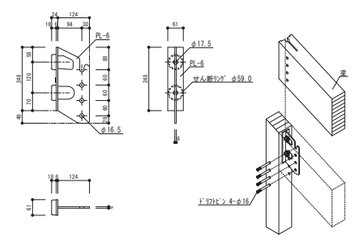
金物名称	FB2U-5	接合部材	横架材	適応サイズ	120以上 × 210以上



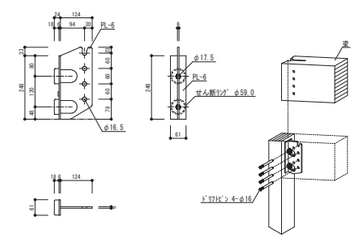
金物名称	FB3	接合部材	横架材	適応サイズ	120以上 × 270以上



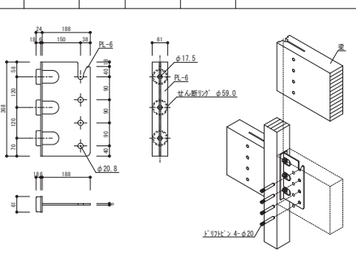
金物名称	FB3D-5	接合部材	横架材	適応サイズ	120以上 × 270以上



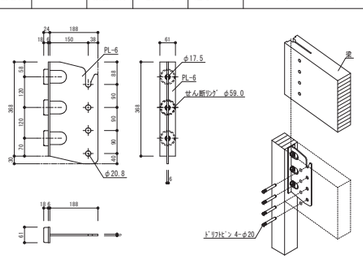
金物名称	FB3U-5	接合部材	横架材	適応サイズ	120以上 × 270以上



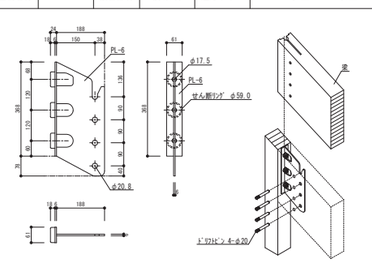
金物名称	JB3	接合部材	横架材	適応サイズ	120以上 × 390以上



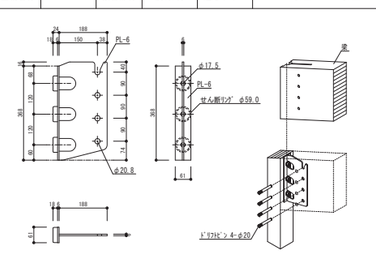
金物名称	JB3D-1	接合部材	横架材	適応サイズ	120以上 × 420以上



金物名称	JB3D-5	接合部材	横架材	適応サイズ	120以上 × 420以上



金物名称	JB3U-1	接合部材	横架材	適応サイズ	120以上 × 420以上



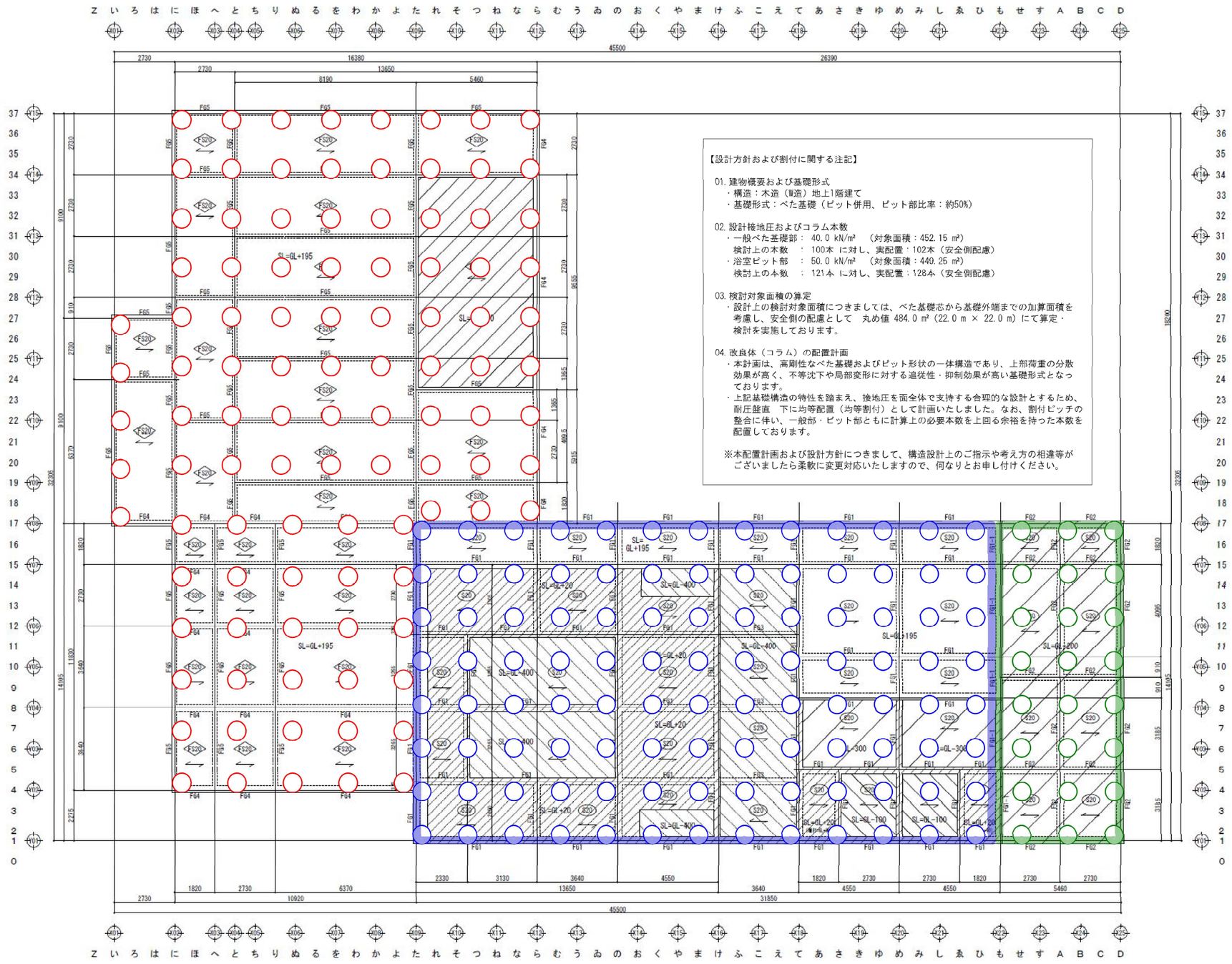
株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

木質構造標準仕様書（５）
ＳＥ金物詳細図（Ver.3）
（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト
群馬県　邑楽郡明和町

株式会社レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録　第８６８号
一級建築士登録　第178316号　開谷 源次

製 図	
検 図	
承 認	
日 付	2026.09.02
縮 尺	
設計番号	25-2782
図面番号	0DU504 Ｓ－０８



【設計方針および割付に関する注記】

01. 建物概要および基礎形式
・構造：木造（W造）地上1階建て
・基礎形式：べた基礎（ピット併用、ピット部比率：約50%）

02. 設計接地圧およびコラム本数
・一般べた基礎部： 40.0 kN/m² （対象面積：452.15 m²）
検討上の本数 ： 100本 に対し、実配置：102本（安全側配慮）
・浴室ピット部 ： 50.0 kN/m² （対象面積：449.25 m²）
検討上の本数 ： 121本 に対し、実配置：128本（安全側配慮）

03. 検討対象面積の算定
・設計上の検討対象面積につきましては、べた基礎芯から基礎外端までの加算面積を考慮し、安全側の配慮として 丸め値 484.0 m²（22.0 m × 22.0 m）にて算定・検討を実施しております。

04. 改良体（コラム）の配置計画
・本計画は、高剛性なべた基礎およびピット形状の一体構造であり、上部荷重の分散効果が高く、不等沈下や局部変形に対する追従性・抑制効果が高い基礎形式となっております。
・上記基礎構造の特性を踏まえ、接地圧を面全体で支持する合理的な設計とするため、耐圧盤直 下に均等配置（均等割付）として計画いたしました。なお、割付ピッチの整合に伴い、一般部・ピット部ともに計算上の必要本数を上回る余裕を持った本数を配置しております。

※本配置計画および設計方針につきまして、構造設計上のご指示や考え方の相違等がございましたら柔軟に変更対応いたしますので、何なりとお申し付けください。

地盤改良の設計緒元

1) 準拠基準 ： 本検討書は以下に代表する基準類を参考に検討を行うものである。
「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」日本建築センター
「建築基礎構造設計指針」日本建築学会

2) 検討項目 ： 検討は、構造計算書に基づく安定計算とする。

3) 設計GL ： GH－19.00m

4) 改良天端高 ： 構造図 S-12 参照へ（改良体天端に均しコンクリートを設置する）

5) 支持地盤 ： 洪積粘性土層

6) 改良体頭部固定度：αγ = 0.25（半固定）

7) 地盤の水平方向変形係数 ： 改良対象層の換算N値より、2.3～3.0（平均値=3.0程度）
安全側に考慮して 1.0 とする
Eo＝700N＝700×1.0＝700kN/㎡ とする

8) 地盤の水平反力低減 ： 考慮なし

9) その他 ： ・一般部 長期地耐力度 Lfe ＝ 40kN/㎡ とした
ピット部 長期地耐力度 Lfe ＝ 50kN/㎡ とした
より地盤設計用の荷重（長期建物荷重、短期建物荷重）を設定する

・水平力検討荷重の荷重分配の設定にあたっては、長期軸力の1/4を短期付加軸力として入力する（ 正負 ． 共 ）

・軸力（全建物荷重）に基礎自重（基礎重量）を含む

・改良体先端部は、粘性土＝10.5
採用N値＝10.5 とする

・地盤データ全体を俯瞰的に解釈し、掘削長の設定を平均対応とする
（ 改良コラム下端＝設計GL-8.00～9.40m ）

特記事項	
1	設計ＧＬ＝ＧＨ＋１９．０m とする。
2	スリーエスＧ工法（湿式柱状改良） 同等の強度での代替え可能
3	詳細仕様は、改良検討書・工法仕様書を参照のこと。

地盤改良配置図

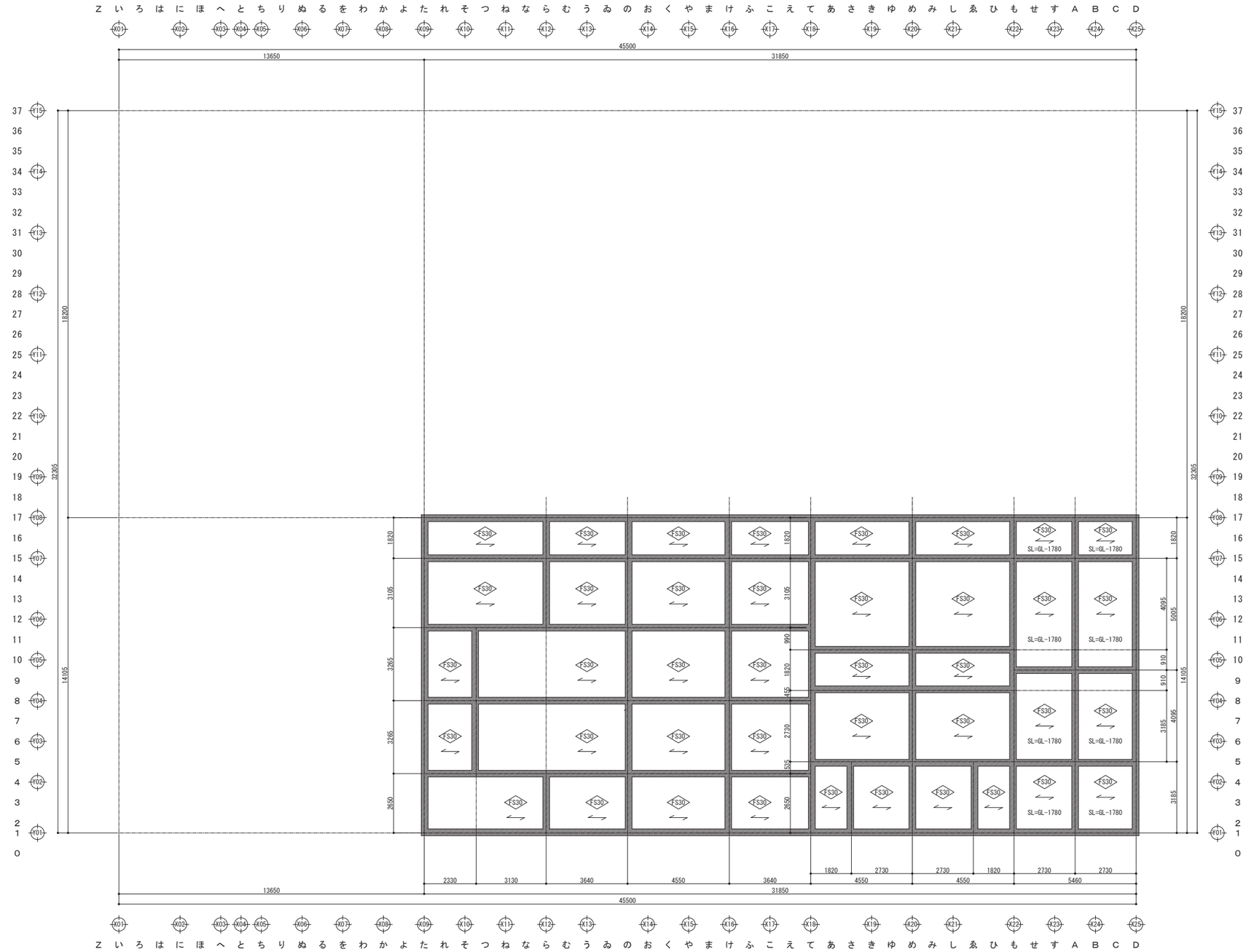
（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト

群馬県 邑楽郡明和町

製 図	
検 図	
承 認	
日 付	2026.10.27
縮 尺	
設計番号	25-2782
図面番号	00U504 S－08-1

株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録 第53799号
一級建築士登録 第289962号 大口 仁
構造設計一級建築士登録 第1175号

株式会社 レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1 電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録 第８６８号
一級建築士登録 第178316号 関谷源次



特記事項				
	1	設計地耐力　ｆｅ＝５０ｋＮ／㎡（長期）	7	注意：　施工図は、別途作成してください。
	2	コンクリート設計強度　Ｆｃ＝２４Ｎ／ｍｍ²	8	スリーブは、開口補強を行うこと。
		調合管理強度（呼び強度）は、基礎構造標準仕様書のコンクリート工事欄に従い、適切に設定すること	9	下記については、日本建築学会仕様によるものとする コンクリート骨材・水及び混和材の種類・強度試験方法・調合及び養生方法 型枠の取り外し時期及び方法など
	3	鉄筋材料　ＳＤ２９５　ｆｔ＝１９５Ｎ／ｍｍ²（Ｄ１０～Ｄ１６） ＳＤ３４５　ｆｔ＝２１５Ｎ／ｍｍ²（Ｄ１９～）		
	4	設計ＧＬ＝平均ＧＬ±０ とする。		
	5	設計ＧＬ＝ＧＨ＋１９．０ｍ とする。		
	6	特記なき限り、スラブ天端＝ＧＬ－１４８０ とする。		

（凡例）



耐圧版リスト

符号	版厚		短辺方向（主筋）	長辺方向
FS30	300	上端筋	D13@200	
		下端筋	D13@200	

株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

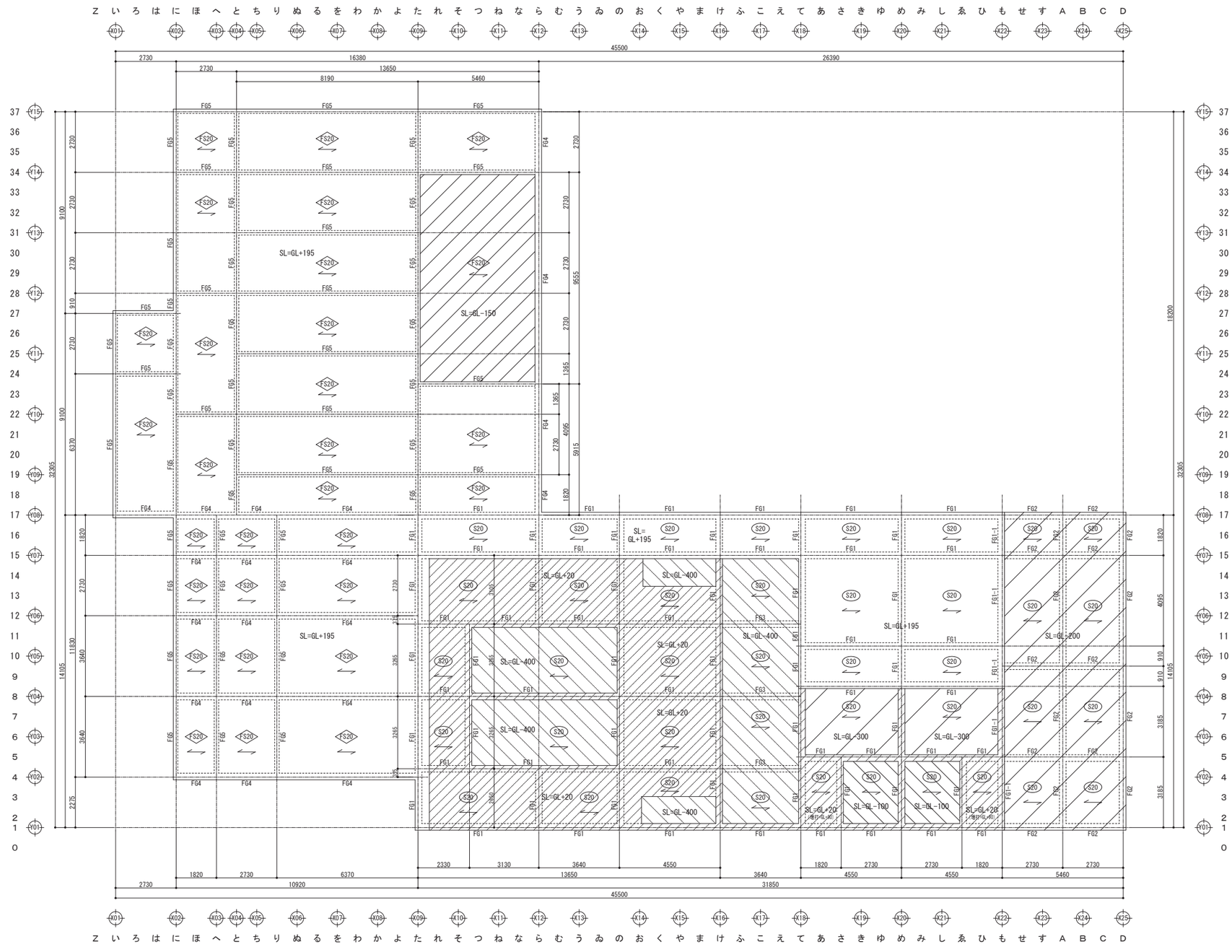
一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

基礎伏図（１）　基礎底盤

（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト
群馬県　邑楽郡明和町

株式会社 レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録　第８６８号
一級建築士登録　第178316号　開谷 源次

製図	
検図	
承認	
日付	2026.09.02
縮尺	A1:1／100 A3:1／200
設計番号	25-2782
図面番号	0DU504 S－０９



特記事項		
	1	設計地耐力　ｆｅ＝５０ｋＮ／㎡（長期）
	2	コンクリート設計強度　Ｆｃ＝２４Ｎ／ｍｍ²
		調合管理強度（呼び強度）は、基礎構造標準仕様書のコンクリート工事欄に従い、適切に設定すること
	3	鉄筋材料　ＳＤ２９５　ｆｔ＝１９５Ｎ／ｍｍ²　（Ｄ１０～Ｄ１６）
		ＳＤ３４５　ｆｔ＝２１５Ｎ／ｍｍ²　（Ｄ１９～）

（凡例）



耐圧版リスト

符号	版厚		短辺方向（主筋）	長辺方向
S20	200	上端筋	D13@200	
		下端筋	D13@200	
FS20	200	上端筋	D13@200	
		下端筋	D13@150	

基礎伏図（２）　１階・耐圧版

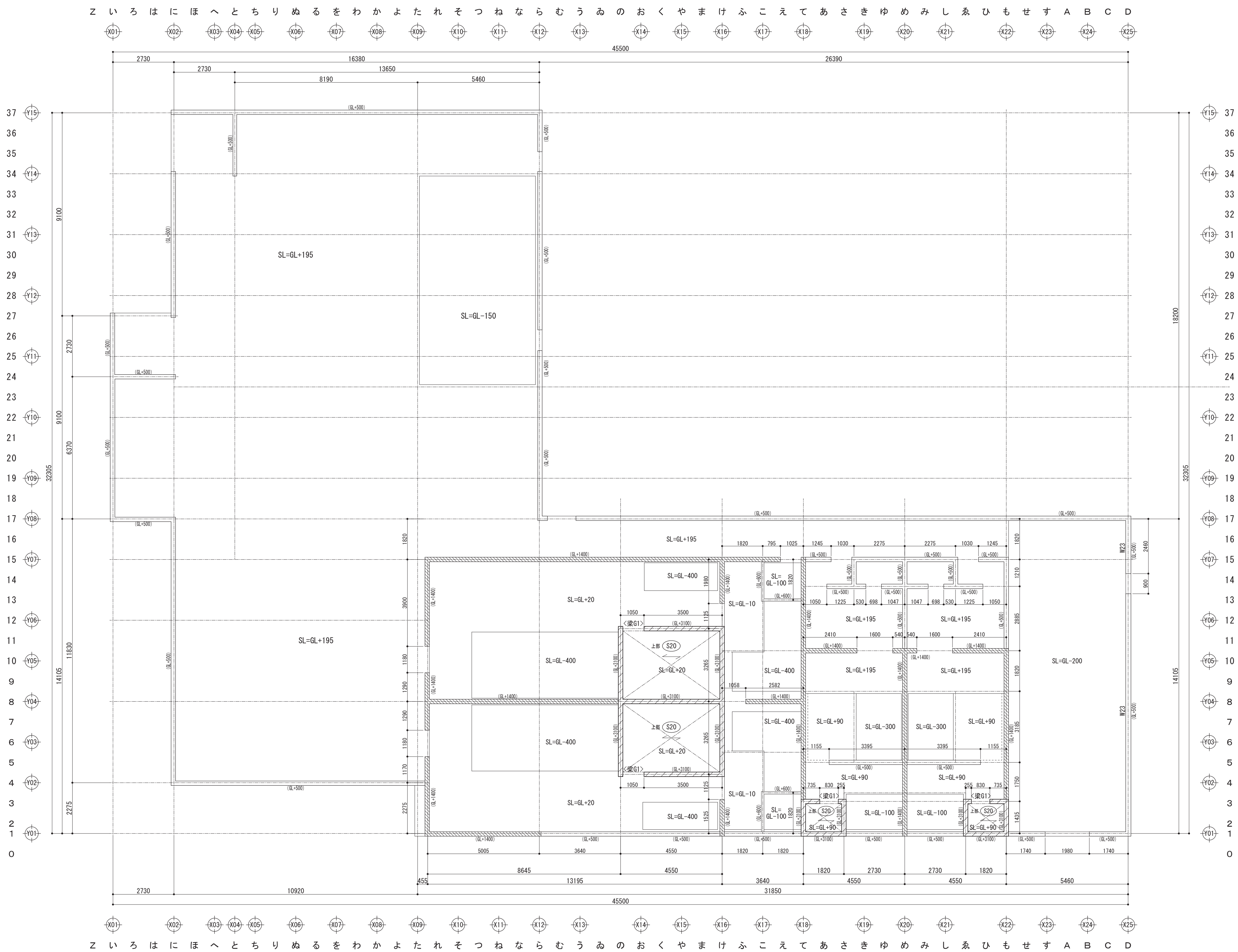
（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト

群馬県　邑楽郡明和町

製図	
検図	
承認	
日付	2026.09.02
縮尺	A1：1／100 A3：1／200
設計番号	25-2782
図面番号	0D0504 S－１０

株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号
一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

株式会社レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録　第８６８号
一級建築士登録　第178316号　関谷源次

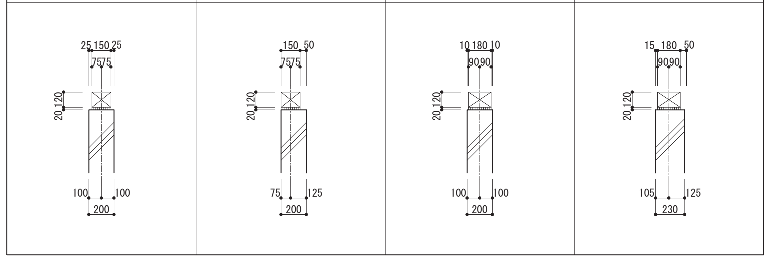


立上り詳細図

1/30

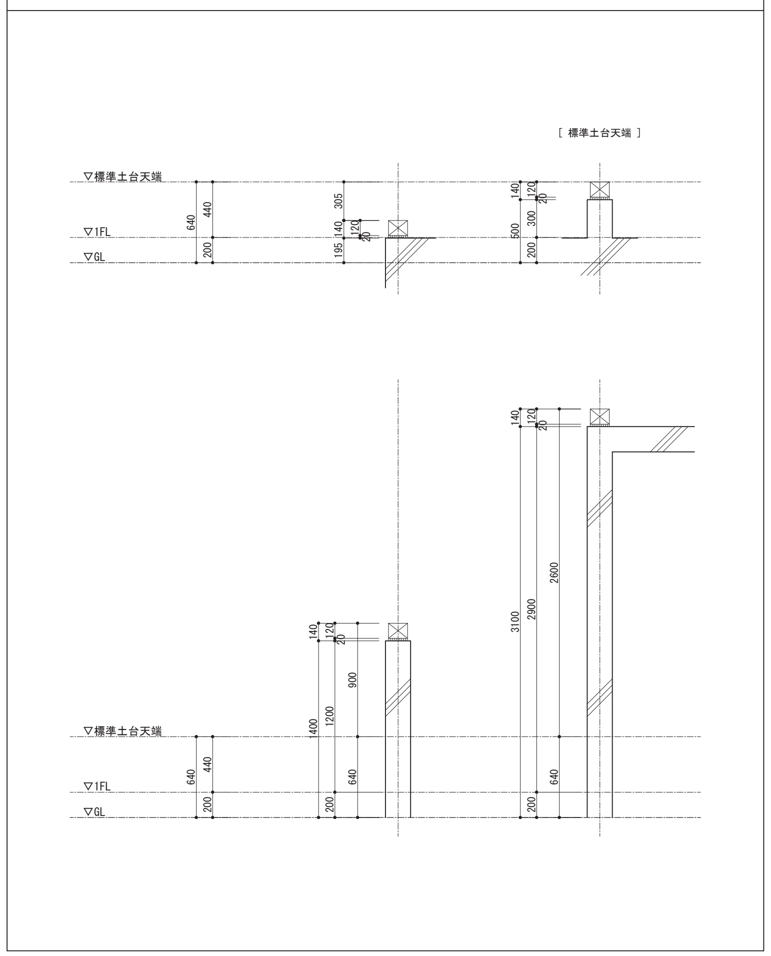
※特記なき限り立上りは、W２０とする。

柱幅150		柱幅180（X25通）	
内 部	外周部	内 部	外周部



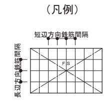
土台レベル詳細図

1/30



特記事項	1	設計地耐力　　ｆｅ＝５０ｋＮ／㎡（長期）
	2	コンクリート設計強度　　Ｆｃ＝２４Ｎ／ｍｍ²
		調合管理強度（呼び強度）は、基礎構造標準仕様書のコンクリート工事欄に従い、適切に設定すること
	3	鉄筋材料　ＳＤ２９５　ｆｔ＝１９５Ｎ／ｍｍ²　（Ｄ１０～Ｄ１６） ＳＤ３４５　ｆｔ＝２１５Ｎ／ｍｍ²　（Ｄ１９～）

（凡例）



耐圧版リスト

符 号	版 厚		短辺方向（主筋）	長辺方向
S20	200	上端筋	D13@200	
		下端筋	D13@200	

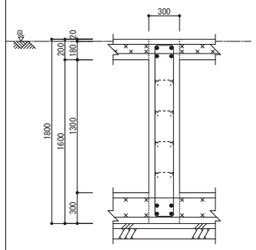
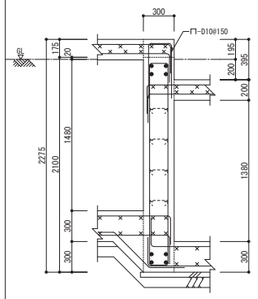
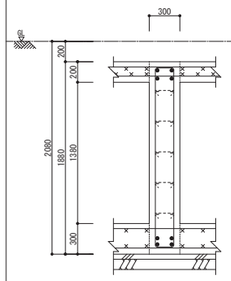
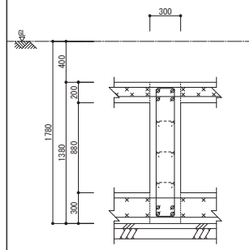
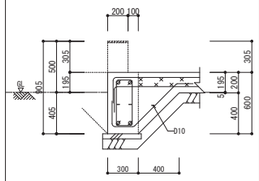
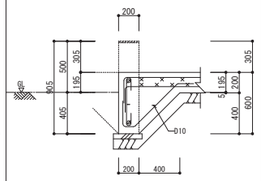
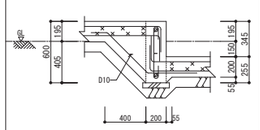
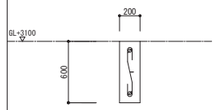
株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

一 級 建 築 士 登 録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

基礎伏図（３）　１階・立上り・土間 （仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト 群馬県　邑楽郡明和町	製 図	
	検 図	
	承 認	
	日 付	2026.09.02
	縮 尺	A1:1／100 A3:1／200
株式会社 レーモンド設計事務所 東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111 一級建築士事務所登録　第８６８号 一級建築士登録　第178316号　関谷源次	設計番号	25-2782
	図面番号	ODU504 Ｓ－１１

基礎断面リスト

【共通事項】特記なき限り下記による
1．幅止メ筋　D10@1000以内
2．二段受け筋　D10@1000以内
3．地業　捨てコンクリート　t=50
　　割栗・砕石　t=100
4．レベラー(ｱ)15
5．ハンチ筋がある場合は、D10@200 とする。

符号	ＦＧ１	ＦＧ１−１	ＦＧ２	ＦＧ３	ＦＧ４	ＦＧ５			Ｇ１
位置	全断面	Ｘ２２通	全断面	全断面	全断面	全断面	段差部		全断面
断面									
上端主筋	2/2-D19	2/2-D19	2/2-D19	2/2-D16	2-D16	1-D16			1-D16
下端主筋	2/2-D19	2/2-D19	2/2-D19	2/2-D16	2-D16	1-D16			1-D16
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D10@150	□-D10@150	□-D10@150	□-D10@150	□-D10@200	℄-D10@150			$-D10@200
腹筋	8-D10	8-D10	10-D10	6-D10	2-D10	1-D10			1-D10
備考					点線は、立上り・両ハンチを示す。	点線は、立上り・両ハンチを示す。			

立上りリスト

符号	Ｗ２０		Ｗ２３						
位置	ＧＬ＋５００	ＧＬ＋１４００以上	全断面						
断面									

スラブ開口補強

※ 床版開口の最大径700mm以下とする。
※ 配筋は上下筋の内側に配筋する。

株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

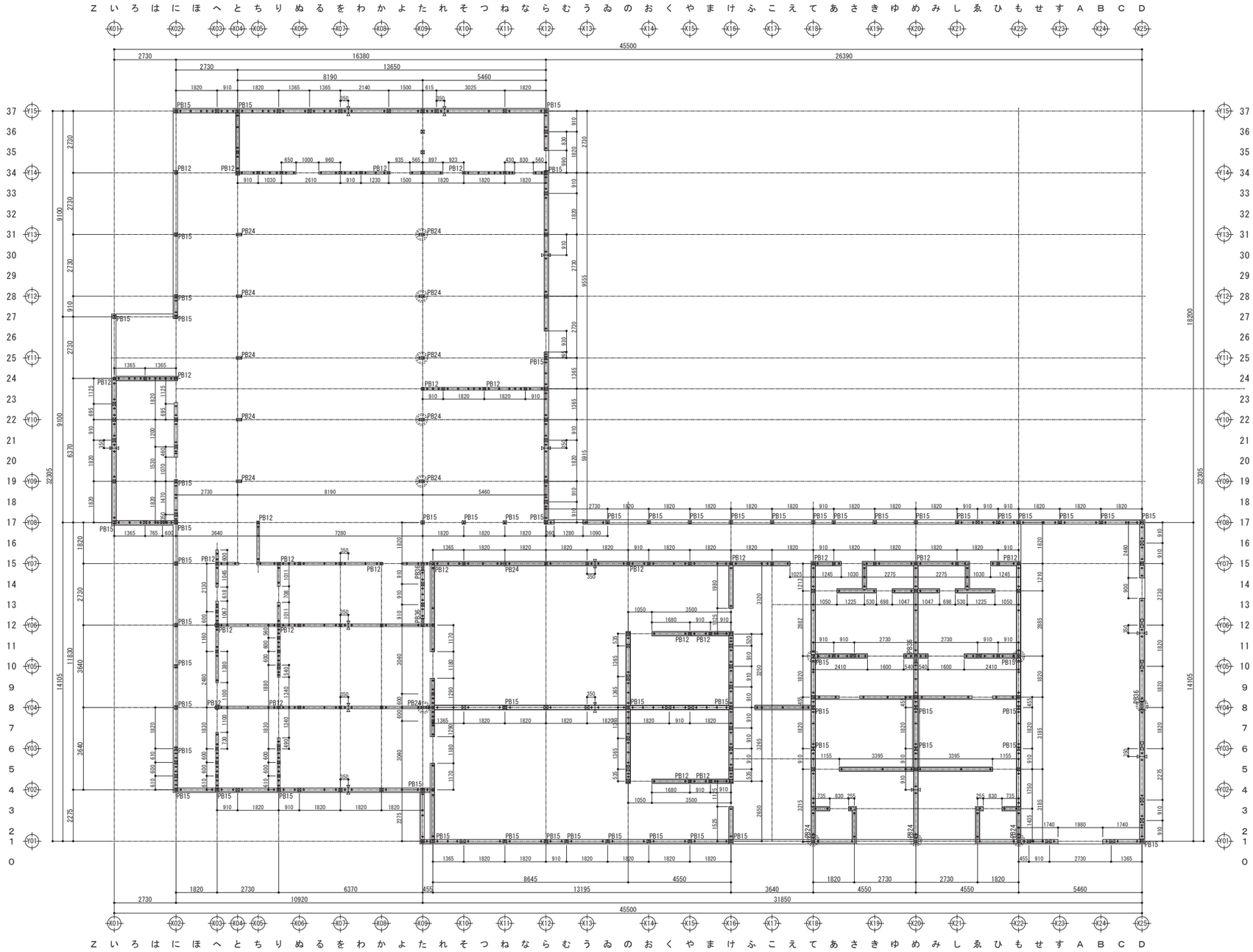
一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

基礎リスト

（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト
群馬県　邑楽郡明和町

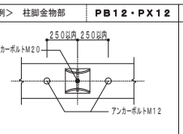
株式会社レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録　第８６８号
一級建築士登録　第178316号　関谷 源次

製図	
検図	
承認	
日付	2026.09.02
縮尺	A1:1／100 A3:1／200
設計番号	25-2782
図面番号	00U504 Ｓ－１２



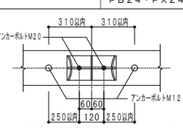
※柱脚金物用アンカーボルトは、M20mm・定着長さ450mm以上（アンカーベース）
※土台用アンカーボルトM12mm： 532 個（参考数量）
※土台アンカーボルトは、M12mm・定着長さ250mm以上（フック付）
※ ◌ は、芯ずれ柱脚を示す。

凡例＞ 柱脚金物部 **PB12・PX12**



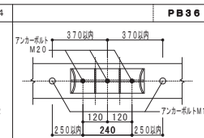
※ 土台端部の端あき寸法は、７５mm以上とする。

PB24・PX24



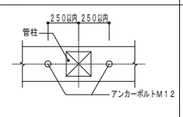
※ 土台端部の端あき寸法は、７５mm以上とする。

PB36



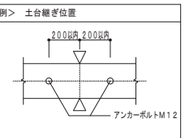
※ 土台端部の端あき寸法は、７５mm以上とする。

凡例＞ 管柱部



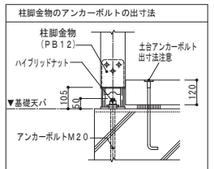
※ 管柱付近のアンカーボルトの基準位置を示す。

凡例＞ 土台継ぎ位置



※ 土台端部の端あき寸法は、７５mm以上とする。

柱脚金物のアンカーボルトの出寸法



※出寸法は、均しモルタル等の厚みを考慮し設定する事。

アンカーボルト工事

（１）アンカーボルトの種類

a. 土台用アンカーボルトは、M12定着長さ250mm以上（フック又はカサ付き）を使用すること。
（Ｚマークもしくは同等品）
b. 柱脚金物用アンカーボルトはM20（定着板付き）とする。
c. 柱脚金物用アンカーボルト及び座金、ナットは（株）エヌ・シー・エヌが供給する部材を使用すること。
d. アンカーボルトは、表面をメッキ処理したものとする。

（２）アンカーボルトの出寸法

a. 土台用アンカーボルトの出寸法は土台天端から-10mm～+50mm程度とする。
b. 柱脚金物用アンカーボルトの出寸法は以下とする。

	基礎仕上げ天端からの寸法
柱脚金物アンカーボルト出寸法	50mm （ -5 ～ +15mm ）

（３）アンカーボルトの施工

a. 土台用アンカーボルトの定着長さは250mm以上とする。
b. アンカーボルトは、原則として、前もって型枠に固定又は配筋等に結束して施工すること。
c. アンカーベース（柱脚金物用）を使用する場合は、必ず捨コンクリートの上へ設置すること。
※ 基礎高さ1000mm以上の場合は、定着板付きの専用アンカーボルトを使用する事も可能。
d. アンカーボルトのかぶり厚さは40mm以上を確保すること。
e. 柱脚金物用アンカーボルトは地中梁に挿入し、立上り部分のみだけの定着をさせないこと。

土台用アンカーボルト	柱脚金物用アンカーボルト

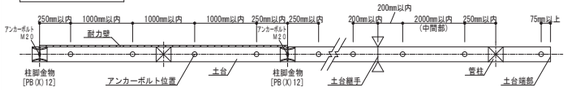
・ねじ山はナット頭から２～３山以上出るようにする。
・柱脚金物の下には、基礎パッキンは使用禁止。

（４）土台用アンカーボルトの配置

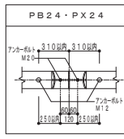
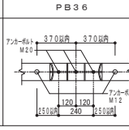
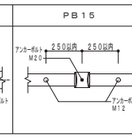
■土台用アンカーボルトは、「アンカー伏図」に基づいて施工を行うこと。

a. 土台用アンカーボルトは、柱芯から250mm以内に必ず配置し、中間部は2000mm以内のピッチで配置すること。
ただし、高耐力壁の場合、1000mm以内のピッチで配置すること。
b. 土台端部の最小端あき長さは75mm以上とし、土台の継手がある場合、アンカーボルトは継手から200mm以内に配置すること。

耐力壁



※その他のアンカー配置図 ※ 土台端部の端あき寸法は、７５mm以上とする。

PB24・PX24	PB36	PB15	
			

（５）柱脚金物用アンカーボルトの位置ずれの対処

□ＰＢ金物の場合 （PB12・PX12・PB15・PB24・PX24・PB36）

①平面位置10mm以内のずれの場合 ⟶ 金物に付属する偏芯座金で対応
②平面位置10mmを超え15mm以内の場合 ⟶ ＮＣＮが供給する専用補正座金を使用し現場で是正処理
③平面位置15mmを超えるずれ ⟶ ＮＣＮへ連絡し、対処方法を相談

※是正処置は、ＳＥ構法マニュアルに従って施工すること。
※平面位置15mmを超えるずれの場合、状況により基礎の再施工となる可能性があります。

⚠ 規定以外の方法で是正を行った場合、ＳＥ構法の構造性能を保証できません。

株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録 第53799号

一級建築士登録 第289962号 大口 仁
構造設計一級建築士登録 第1175号

柱脚金物・アンカー伏図

（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト
群馬県 邑楽郡明和町

製 図	
検 図	
承 認	
日 付	2026.09.02
縮 尺	A1:1／100 A3:1／200

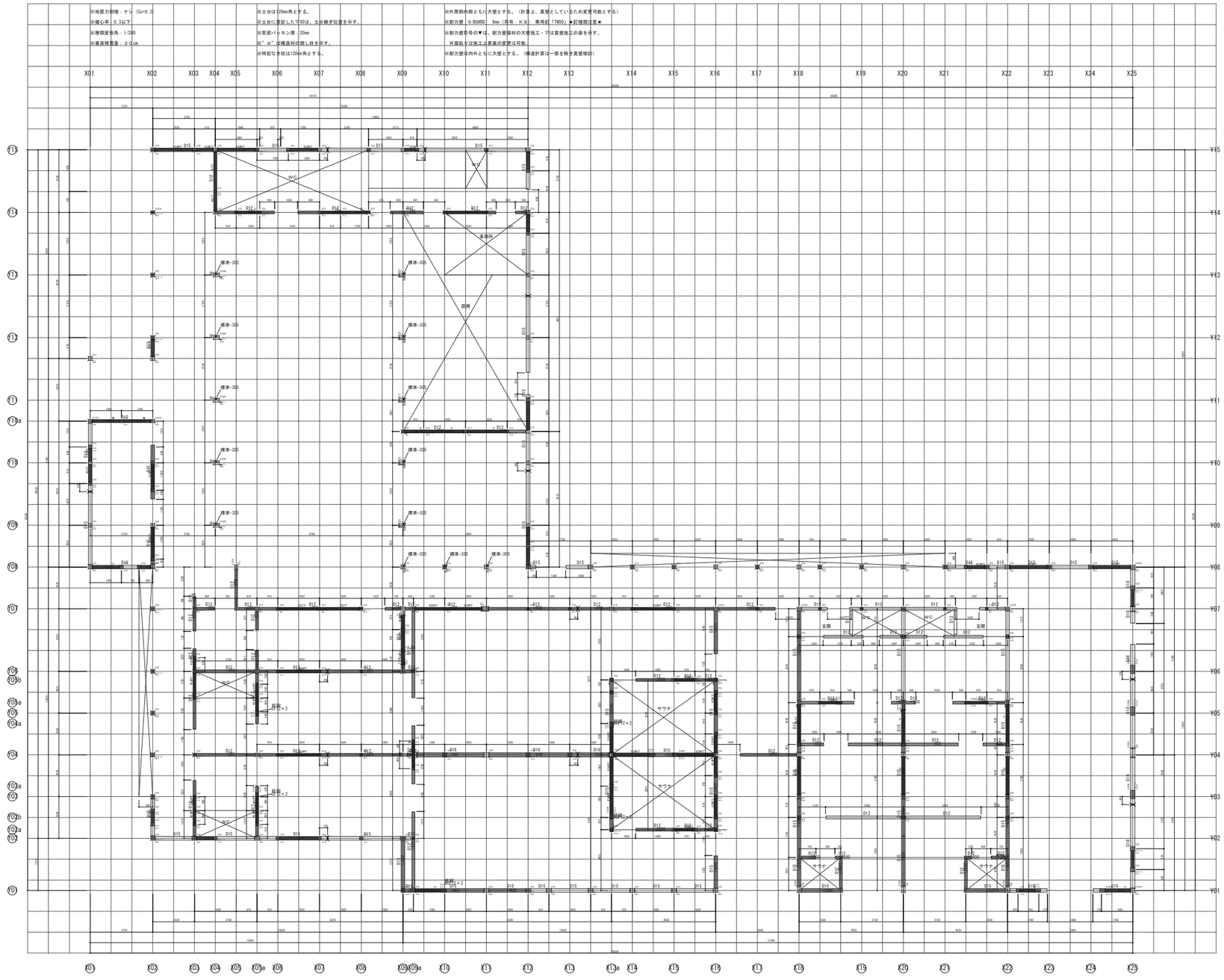
株式会社 レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1 電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録 第８６８号
一級建築士登録 第178316号 関谷 源次

設計番号	25-2782
図面番号	00U504 S－１３

※地震力割増：ナシ（ Co=0.2）
※偏心率：0.3以下
※層間変形角：1/200
※最底接地圧：3.0t/m²

※土台は120mm角とする。
※土台に表記した寸印は、大引掛け位置を示す。
※気密パッキン厚：20mm
※" ø " は構造材の間し柱を示す。
※特記なき柱は120mm角とする。

※外周部(布部ともに大壁とする。（計算上、真壁としているための変更可能とする）
※耐力壁：G-ROAD　9mm（旭電化工業㈱　KS　専用釘「TN50」★釘種間違い厳★
※耐力壁符号の▼は、耐力壁面材の大壁施工・▽は真壁施工の面を示す。
　片面貼りは施工と表裏の変更は可能。
※耐力壁は内外ともに大壁とする。（構造計算は一部を除き真壁検討）



土台伏図

（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト

群馬県　邑楽郡明和町

製図	
検図	
承認	
日付	2026.09.02
縮尺	A1:1／100 A3:1／200
設計番号	25-2782
図面番号	0U504 S－14

株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

株式会社 レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録　第８６８号
一級建築士登録　第178316号　関谷源次

※屋根勾配：1.0寸

※野地板は、構造用合板12mm以上とする。（釘CN50@150以下）

※垂木 桧 45mm×90mm @455mm

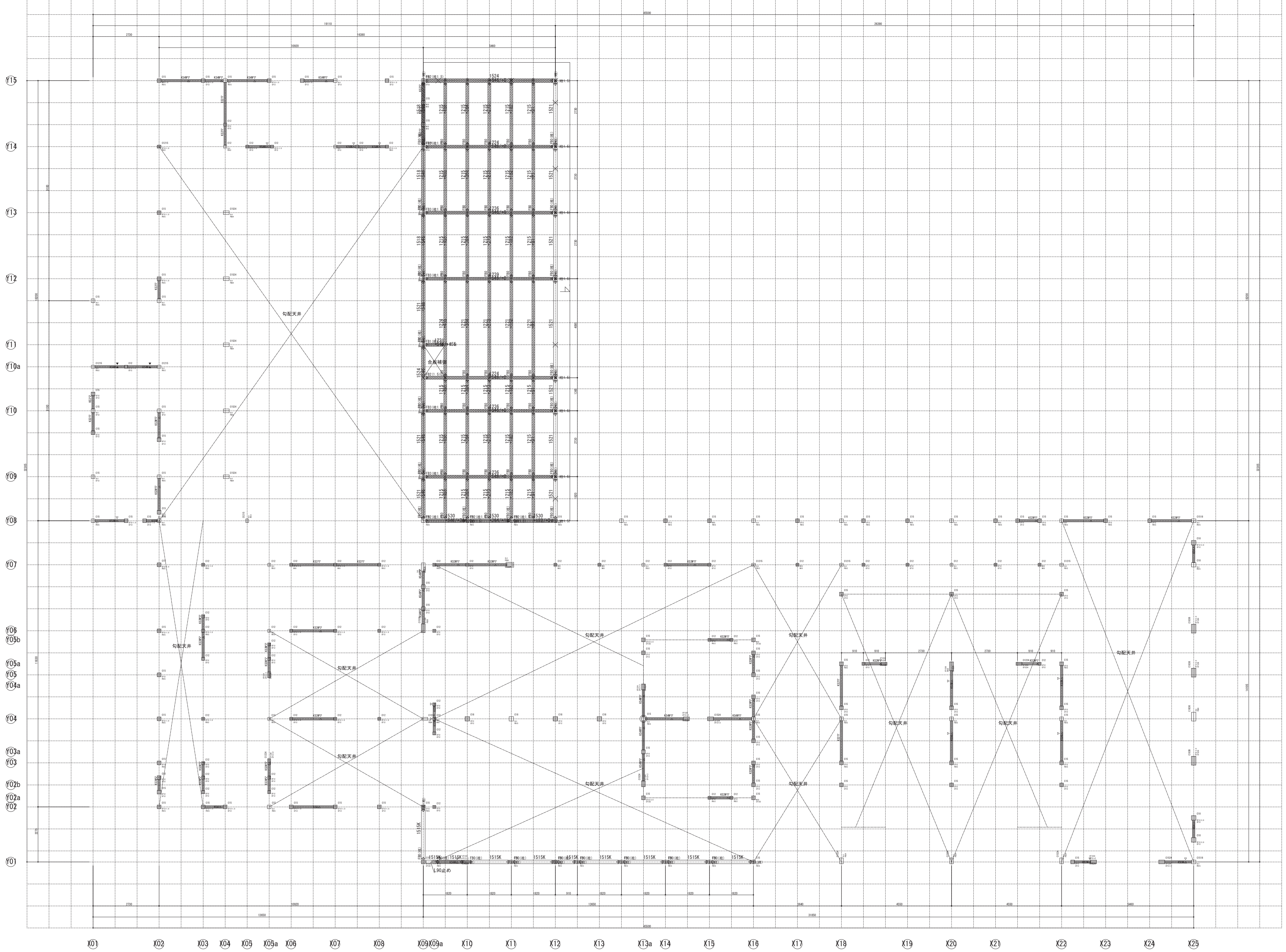
※特記なき梁・母屋は120mm巾とする。

※特記なき柱・束は120mm角とする。

※耐力壁：G-BOARD 9mm（符号：ＫＳ） 専用釘「TN50」★釘種類注意★

※耐力壁符号の▼は、耐力壁面材の大壁施工・▽は真壁施工の面を示す。

片面貼りは施工上表裏の変更は可能。



株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

1-1階 梁伏図	製 図
	検 図
（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト	承 認
	日 付　2026.09.02
群馬県　邑楽郡明和町	縮 尺　A1:1／100　A3:1／200
株式会社 レーモンド設計事務所 東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111 一級建築士事務所登録　第８６８号 一級建築士登録　第178316号　関谷源次	設計番号　25-2782
	図面番号　0DU504　S－15

※屋根勾配：１０寸

※野地板は、構造用合板12mm以上とする。（釘CN50@150以下）

※垂木 間 45mm×90mm @455mm

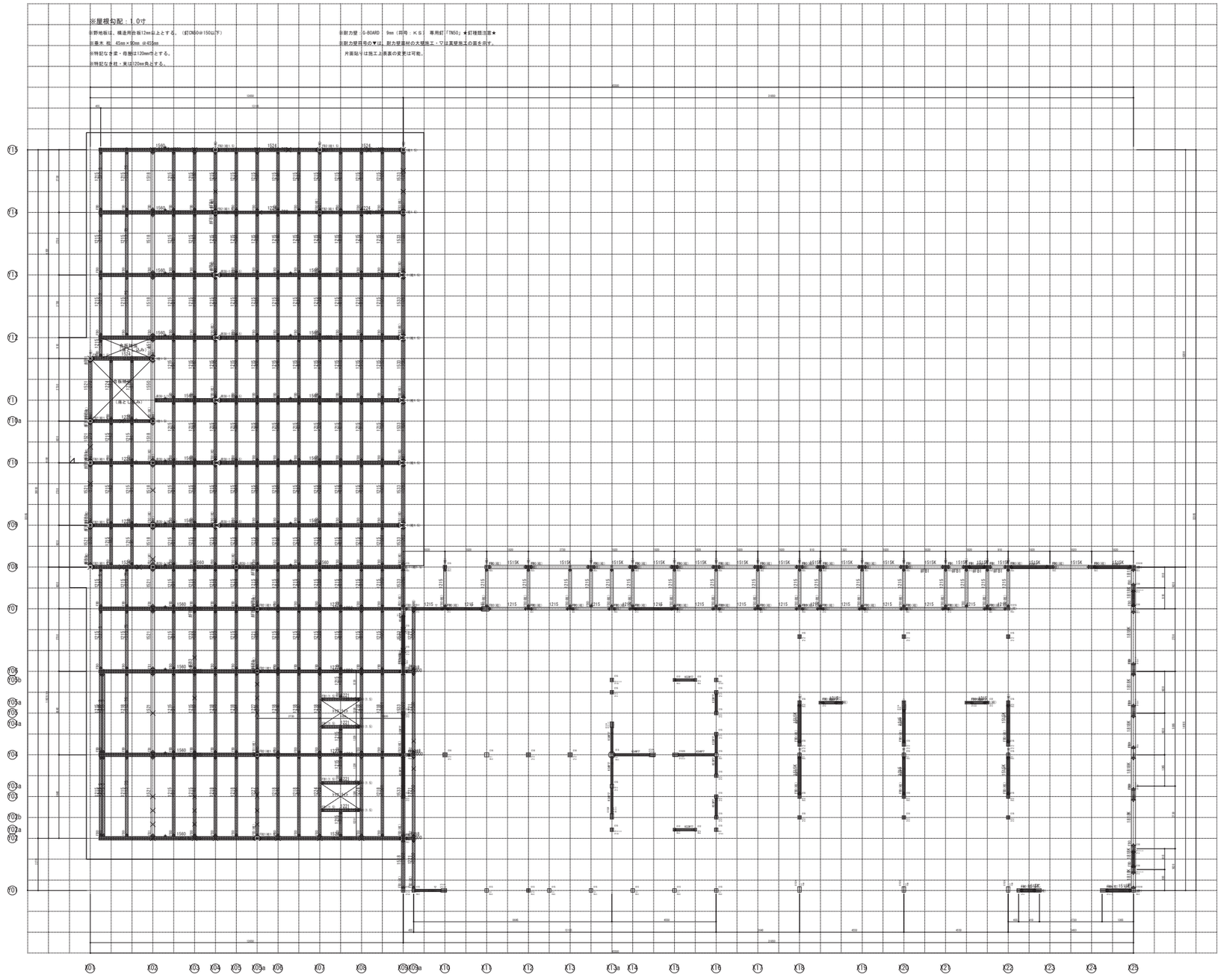
※特記なき梁・母屋は120mmたとする。

※特記なき柱・束は120mm角とする。

※耐力壁 G-BOARD 9mm（符号 ＫＳ） 専用釘「TN50」★釘種類注意★

※耐力壁符号の▼は、耐力壁面材の大壁施工・▽は真壁施工の面を示す。

片面貼りは施工上表裏の変更は可能。



2階 梁伏図

（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト

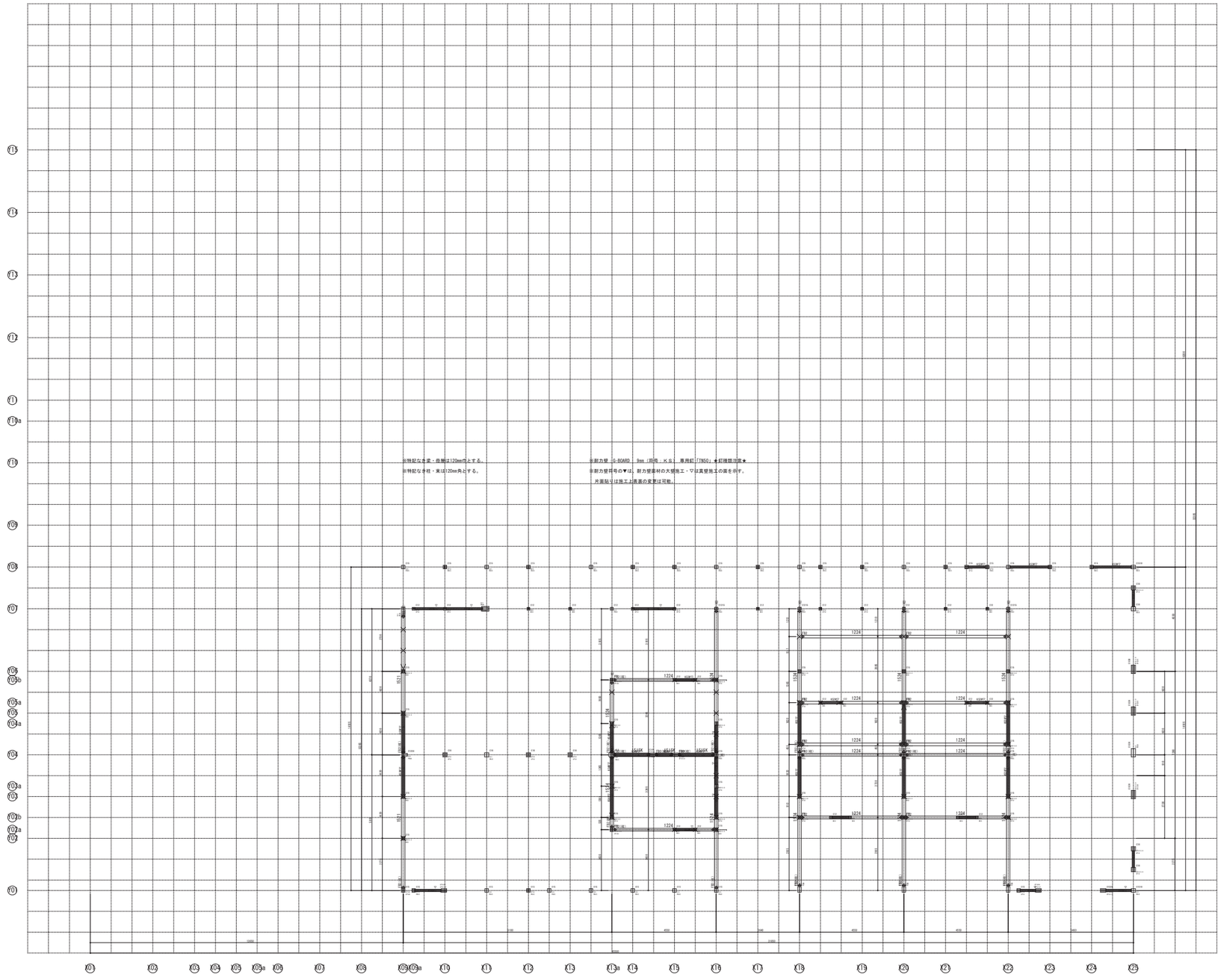
群馬県　邑楽郡明和町

株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

株式会社 レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録　第８６８号
一級建築士登録　第178316号　関谷 源次

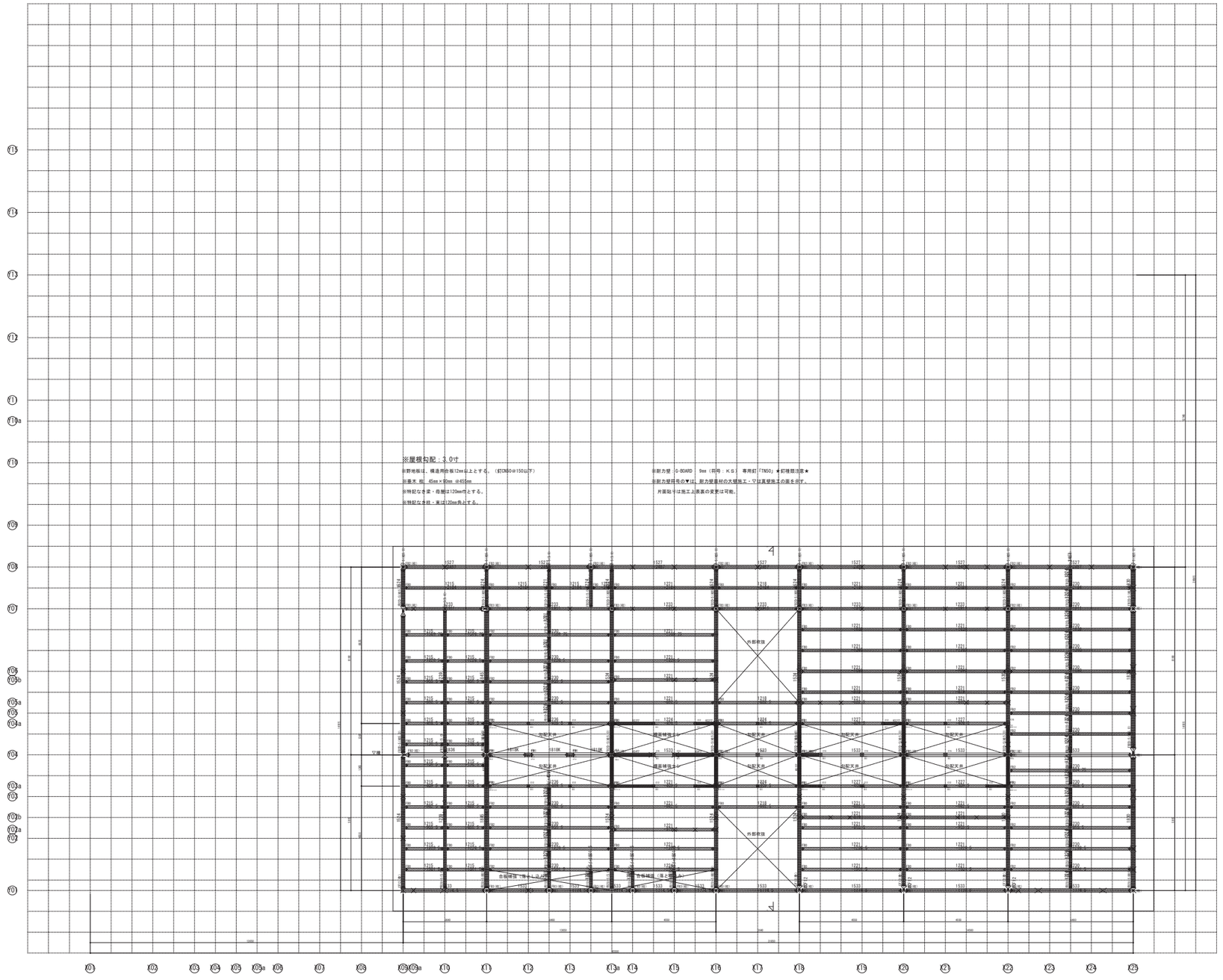
製図	
検図	
承認	
日付	2026.09.02
縮尺	A1:1／100 A3:1／200
設計番号	25-2782
図面番号	0U504 S－16



4階 梁伏図	製図
（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト	検図
群馬県 邑楽郡明和町	承認
	日付 2026.09.02
	縮尺 A1:1／100 A3:1／200
株式会社 レーモンド設計事務所	設計番号 25-2782
東京都渋谷区代々木5-58-1 電話 03-5453-3111	図面番号 0DU504
一級建築士事務所登録 第８６８号	S－１７
一級建築士登録 第178316号 関谷源次	

株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録 第53799号

一級建築士登録 第289962号 大口仁
構造設計一級建築士登録 第1175号



4-1階 梁伏図

（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト

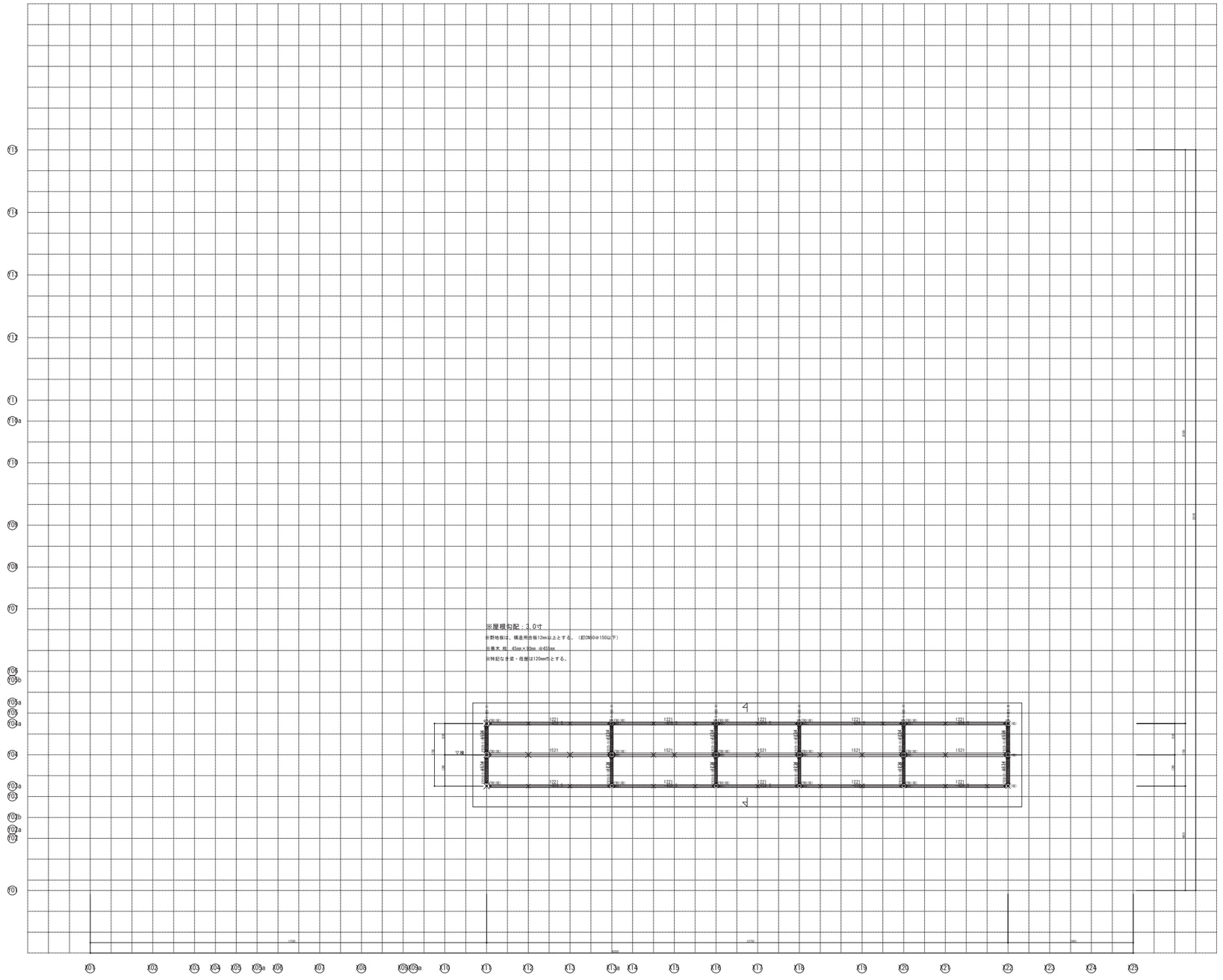
群馬県　邑楽郡明和町

製図	
検図	
承認	
日付	2026.09.02
縮尺	A1:1／100 A3:1／200
設計番号	25-2782
図面番号	0U504 S－18

株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

株式会社 レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録　第８６８号
一級建築士登録　第178316号　開谷源次



R階 梁伏図

（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト

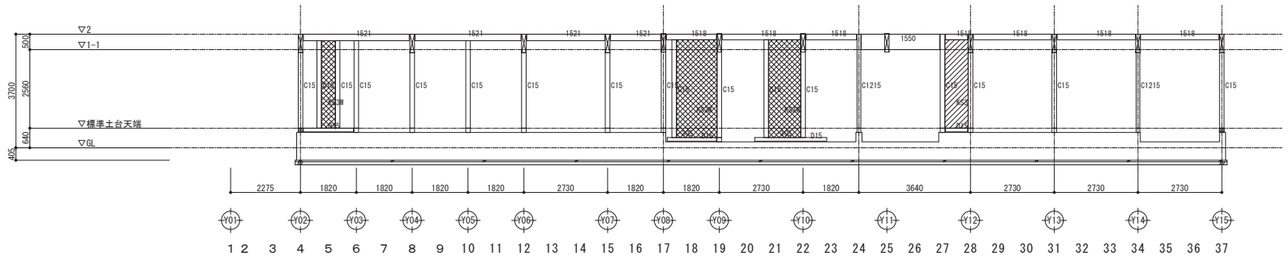
群馬県　邑楽郡明和町

製図	
検図	
承認	
日付	2026.09.02
縮尺	A1:1／100 A3:1／200
設計番号	25-2782
図面番号	0DU504 S－19

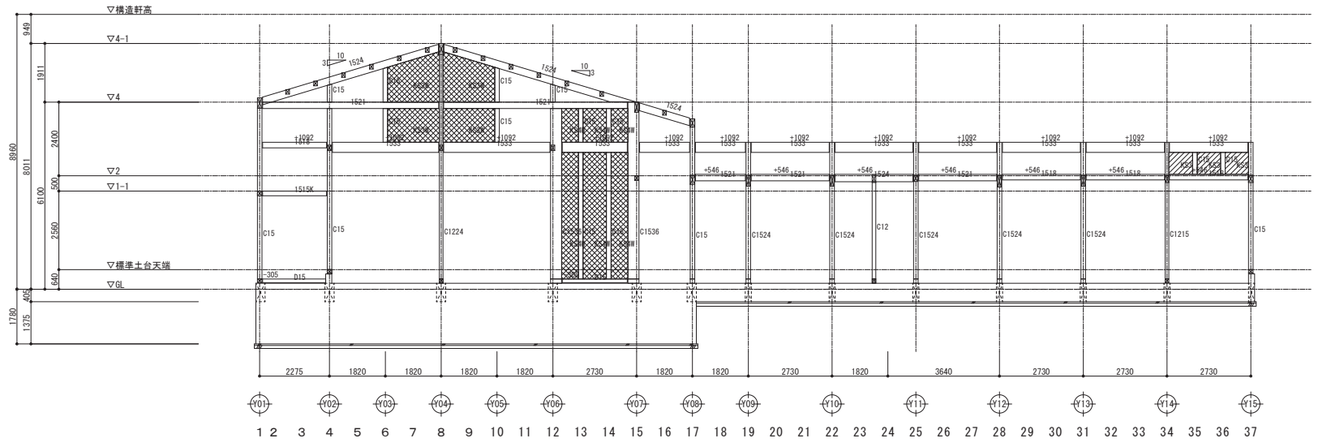
株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

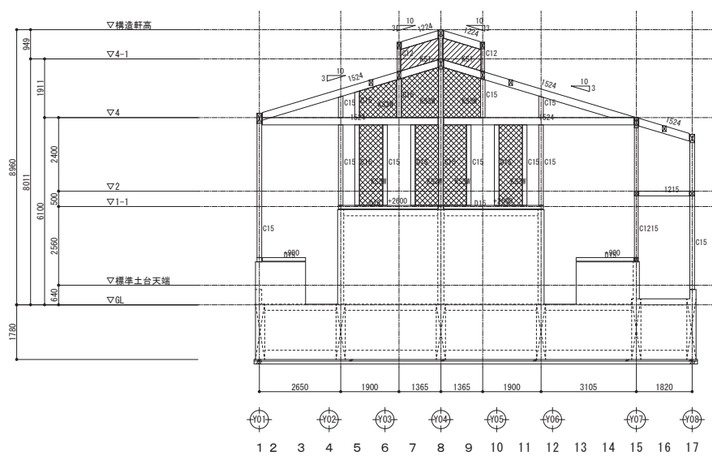
株式会社 レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録　第８６８号
一級建築士登録　第178316号　関谷源次



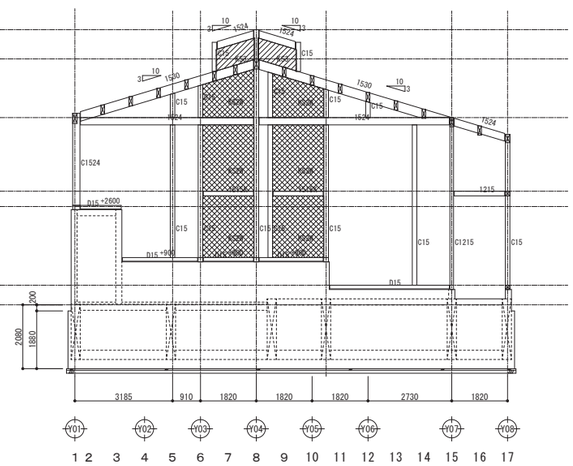
X2通（に）



X9通（た）



X16通（け）



X22通（も）

軸組断面図（１）

（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト

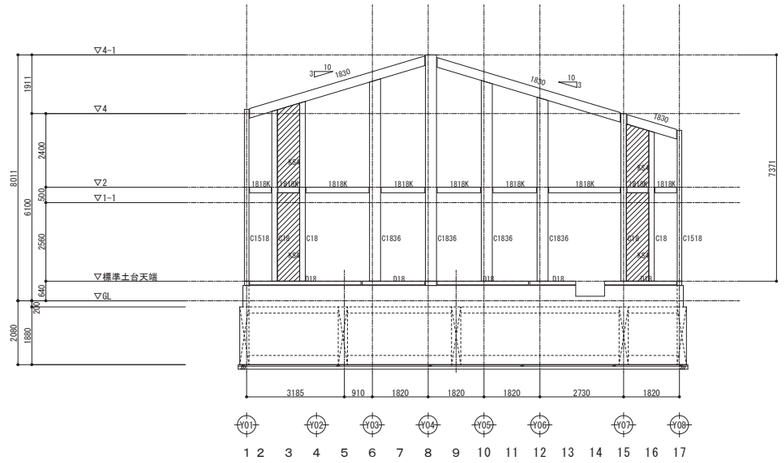
群馬県　邑楽郡明和町

製図	
検図	
承認	
日付	2026.09.02
縮尺	A1：1／100 A3：1／200
設計番号	25-2782
図面番号	0DU504 S－２０

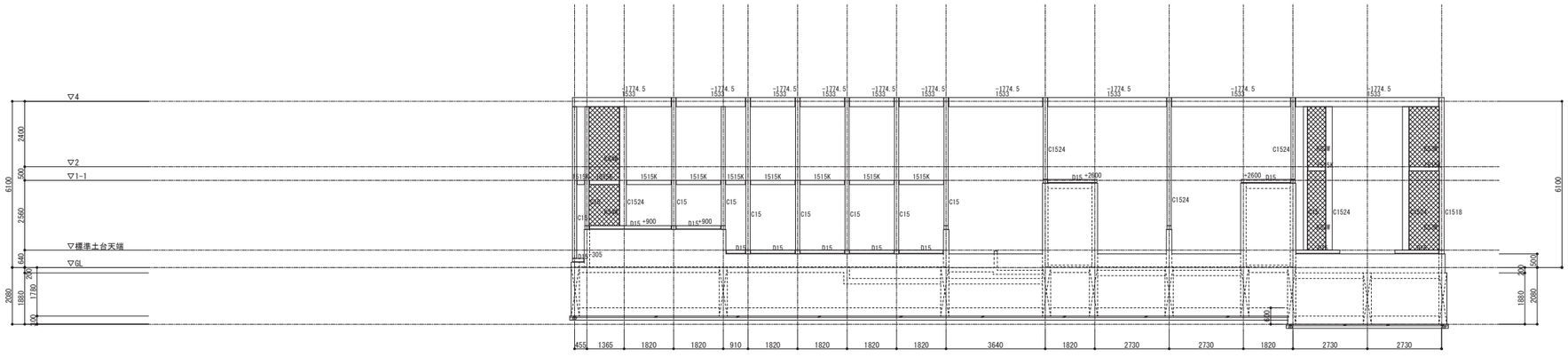
株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

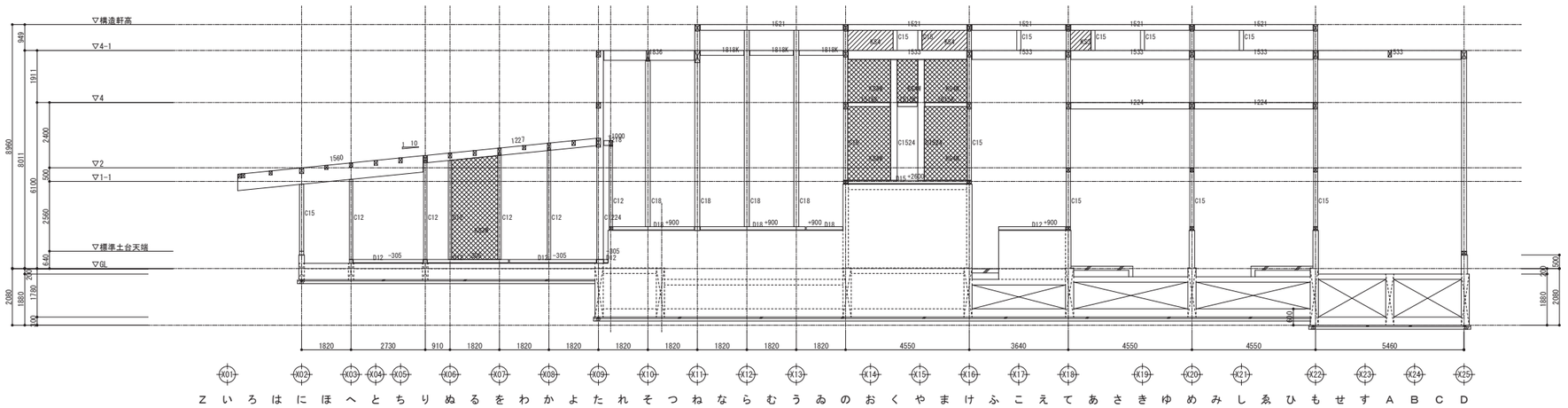
株式会社 レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録　第８６８号
一級建築士登録　第178316号　関谷源次



X25通（D）



Y01通（1）



Y04通（8）

軸組断面図（2）

（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト

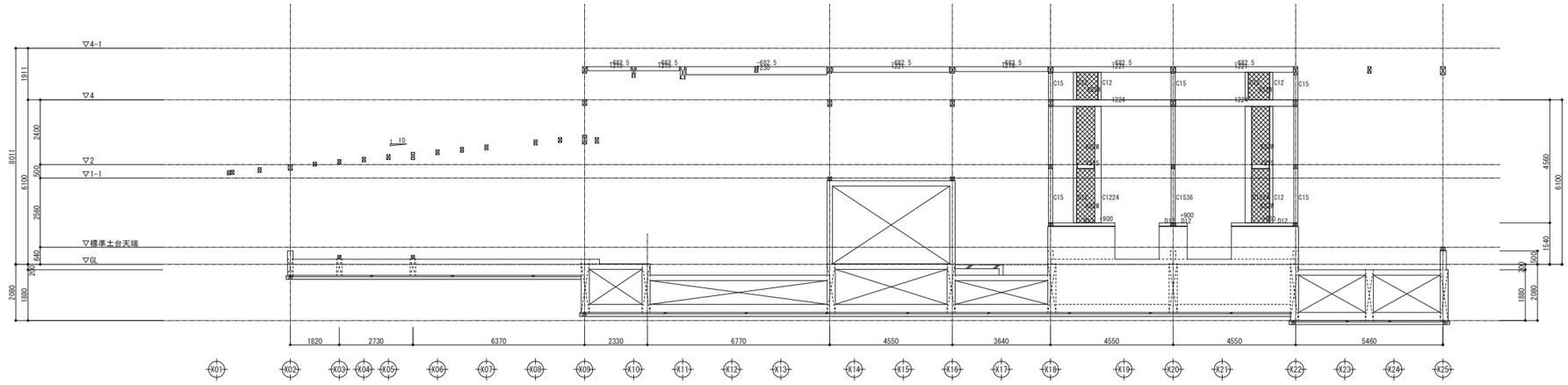
群馬県　邑楽郡明和町

製図	
検図	
承認	
日付	2026.09.02
縮尺	A1:1／100 A3:1／200
設計番号	25-2782
図面番号	0DU504
	S－21

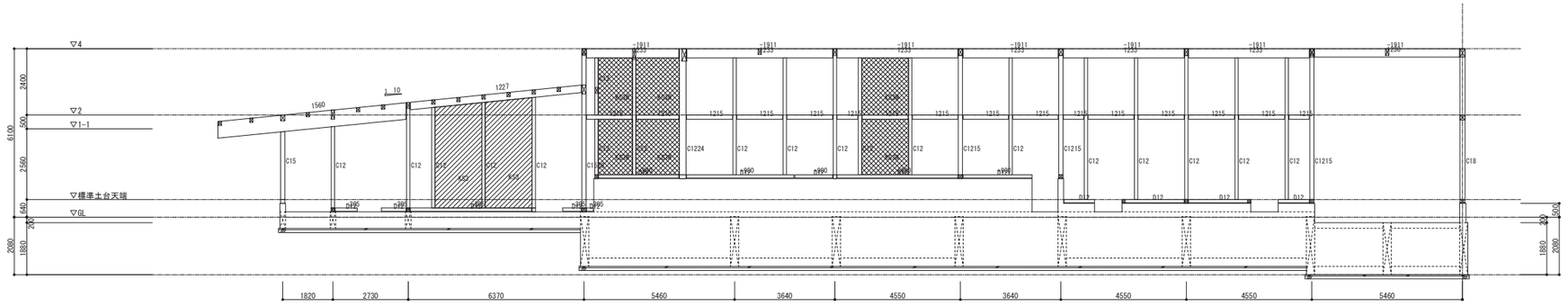
株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

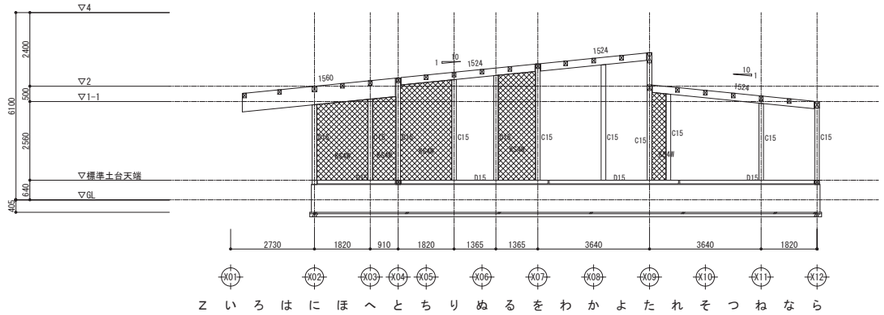
株式会社 レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録　第８６８号
一級建築士登録　第178316号　関谷源次



Y05+455通（又10）



Y07通（15）



Y15通（37）

B×D = 12.0×12.0
iY = 3.47

λ = 456／3.47
= 131.4 ≦ 150

軸組断面図（3）

（仮称）日本基礎ビレッジプロジェクト

群馬県　邑楽郡明和町

製図	
検図	
承認	
日付	2026.09.02
縮尺	A1:1／100 A3:1／200
設計番号	25-2782
図面番号	0DU504
	S－22

株式会社エヌ・シー・エヌ一級建築士事務所
東京都知事登録　第53799号

一級建築士登録　第289962号　大口 仁
構造設計一級建築士登録　第1175号

株式会社レーモンド設計事務所
東京都渋谷区代々木5-58-1　電話 03-5453-3111
一級建築士事務所登録　第８６８号
一級建築士登録　第178316号　関谷 源次